August 20th 1910.

Report of the Sericultural Association of Japan.

No. 222

大日本蠶絲會報

第二百二拾二號目要

▲關西製絲界の泰斗 衣川策之介君▼

●蠶絲業者諸君に對する予の希望　農學士 芳賀權四郎

●石田君の「放任育の反對論」を讀みて所感を述ぶ　農學士 重松達一郎

●雄蠶の生殖器發達の研究　愛媛縣立農業學校教諭 池田榮太郎

●日本生絲改良の急務　農學士 足立元太郎

●秋蠶の飼育は如何に勸奬せらるべきか　鳥羽久吾

●製絲上より見たる蠶種類の選擇　石川縣農事試驗所技手 岡村龍七郎

●蠶病消毒に就て　笠原熊三郎

●本邦蠶絲業家の一考を煩はす　新潟縣者 新井領一郎

●北米の移民と養蠶　新潟縣者 金子眞成

●養蠶家の取るべき今後の方針　本會評議員 南條吉左衞門

●生絲商及製絲家に警告す　在米國海外實業練習生 福島延惠

●米國に於ける養蠶の成蹟　在米國海外實業練習生 椎原廣男

●蠶種振動の胚子に及す影響に就て　高村源次郎

▲本邦蠶界の偉勳者 故高山長五郎君▼

TOKYO.
The Association ;
No. 18 Nishikicho Sanchome, Kanda, Japan.

廣告

蠶業界ハ系統的ニ改善ヲ計畫スルノ聲頗ル高シ而シテ**乾繭、貯藏**ノ方法ソノ宜キヲ得テ然ル後**煮繭**ノ適法ヲ須チテ始メテ蠶絲改善ノ實蹟ヲ擧クベシ本社ハ此ノ進運ニ遭遇シ多年ノ御愛顧ニ酬ヘンガ爲メニ曩ニ**乾燥器**ノ**定價**ヲ**引下**ケ多大ナル恩命ヲ蒙レリ又茲ニ**煮繭器**ノ**特賣**ヲ開始シ以テ斯業有終ノ美ヲ濟サンコトヲ期ス本器ハ獨リ、本邦ノ特許品ナルノミナラズ斯業先進國タル**伊太利佛蘭西**ノ**特許**ヲ得タルモノニシテ幾多同種ノ煮繭裝置ヲ**超越**セル**良器**ナルハ實使者諸君ノ定評ナリ

本社業務ノ擴張連絡ヲ圖リ製絲用汽鑵、汽機、附屬品、製絲諸機等ヲ取扱申候

――蠶業目錄御申込次第送呈ス――

東京市本所區德右衛門町三十四番地

中原式合資會社

（長電話浅花二二二六番（電略ナカ）
振替貯金口座壹六五〇四番）

煮繭器一臺分金物全部　代金四百八拾圓

群馬に開かるべき本會臨時總會

炎暑酷烈五嶽の翠爲めに枯れんとするの時本會は茲に臨時總會の開催を宣せんとす

夫れ偃武の世尚弓矢に荒ふは丈夫の常なり今や滿室の蠶兒成累々たる美繭と化し了りて蠶界亦漸く偃武の時代に入る此時に當り蠶界の丈夫を網羅せる本會豈悠々半歳の惰眠を貪らんや本會が來る十月前橋市に開設せらるべき共進會を機として其臨時總會を開き東西相會して以て蠶界爲すべきの武を究めんとする所以實に茲に存す

惟ふに群馬の地たる本邦蠶業の故地にして人の採りて以て範とすべきもの頗る多し時や三山の紅於美を賞すべきの候吾人は會員諸君の凡べてが隣保相率ゐて陸續來り會し以て蠶業の改良と發展とを企畫せらるべきことを信じて疑はざるものなり

大日本蠶絲會報　第百貳拾貳號

目次

口繪

●關西製絲界の泰斗衣川策之介君
●我邦最初の製絲教育者

論議……一—一四

●蠶絲業者諸君に對する予の希望　農學士　重松一郎
●石田君の「放任育の反對論」を讀みて所感を述ぶ　農學士　池田榮太郎
●雄蠶の生殖器發達の研究　愛媛縣立農業學校教諭　足立元太郎
●日本生絲改良の急務
●秋蠶の飼育は如何に勸奬せらるべきか　農學士　鳥羽久吾

集芳……一四—一九

●製絲上より見たる蠶の種類選擇　岡村龍七郎
●蠶病消毒に就て　石川縣農事講習所技手　笠原熊三郎

叩門……一九—三九

●本邦蠶絲業家の一考を煩はす　新潟縣者　新井領一郎
●北米の移民と養蠶　新潟縣者　金子眞成
●養蠶家の取るべき今後の方針　本會評議員　南條吉左衛門

彫……二九—三三

●關西製絲界の泰斗　衣川策之介君
●本邦蠶業界の偉人　故高山長五郎君

編者　編輯者

遠雲……三三—四一

●生絲商及製絲家に警告す　在米國海外實業練習生　福島延惠
●米國に於ける養蠶の成績　在米國海外實業練習生　椎原廣男
●外人の見たる支那絹織物業

試驗……四一—四五

●蠶種振動の胚子に及す影響に就て　高村源次郎

說林……四五—四七

●還種統一問題に對する所感　金谷權之助
●氷室蠶種貯藏に就て　湯山邦德

實務……四七—四九

●養蠶年中行事　愛媛縣立農業學校教諭　池田榮太郎

絲況……四九—五〇

●横濱市場　●絹育市場　●里昂市場　●上海市場

問答……五〇—五四

●沖繩縣の蠶業に對する質問並答　●法律上專交尼の件に就き質問並答　●生絲を目的とする生產組合に就き質問並答　●風穴と冷藏庫との利害得失其他に就き質問並答

會務錄事……五四—五六

●支會設置及支會職員の囑託＝特別會員の推薦＝奬勵委員の囑託＝本會職員の出張

蠶桑雜觀……五六—五七

●京都蠶業講習所卒業證書授與式＝原富隅製絲所賞狀贈呈式＝蠶繭產生絲の檢査成績＝群馬縣に於ける育種大會＝蠶絲業法の制定＝生絲の前途好望＝十九日＝北海道の寒蚕＝(二十九日)＝編買仲に注意せよ(四十七日)＝米國蠶業農作物作柄＝文部＝蠶海消滅＝新刊紹介＝第一次表彰產業組合＝養蠶法講話筆記＝寄贈書目＝人事雜錄

關西製絲界の泰斗衣川策之助君

Monsieur S. Kinugawa, éminent
filateur à Kwansei

講習生募集

男子部 第一期生　**女子部** 第二期生

講師 專門大家博士、學士廿四名講述（講師名及學科目は一月より四月號の本誌にあり）

期間 一箇年　既に八號迄發刊せり（全部千二百餘頁）

講習料 本會々員は貳圓　會員外は參圓

今や諸君は本年に於ける春夏秋の蠶作を日出度結了して良き經驗を積まれたでありまさう此上更に蠶業經營に關する基礎的學科を學ばれたならば必ずや明年の蠶期には圓滿なる好果を收めらるゝ敢て疑を容れざる處であるから切に此講義錄を御進め致します……現今我國第一流の蠶業學者の熱誠を注がれた講義が全部に亙り千二百頁に餘る程で僅か貳圓です……實に安いです……安いのに驚く人もありませう……之れ蓋し本會が我蠶絲業界の爲に貢獻せんと常に期待する微衷の一端に過ぎませぬ

發行所　東京市神田區錦町三丁目十八番地
電話本局一四七三
吟金口座東京一二〇六

大日本蠶絲會

本邦最初の製絲教師

Les premiers maitres de filature au Japan

圖は明治五年上州富岡製絲所創設當時繰絲法教授の任に當れる佛國人の寫眞なり白衣を着して柱に倚れるは首長ポールグリーナー氏其後に在りて帽を手にして立てるは繰絲事業教師首長の前なるは習師其左は練染技師其左の前に坐りてフロックコートを着せるは繰絲事業教師其左後は鍛工其右前は首長への來客其左後は首長の從者其左前の婦人は首長の妻柱側なる邦人は吉田通譯前列の四女は女工教師なり

（長野縣純水館小山久左衛門氏寄贈）

大日本蠶絲會報　第貳百貳拾貳號

蠶絲業者諸君に對する予の希望

學士　芳賀權四郎
農學　蠶絲委員

現今世界に於て蠶絲を產出する國々を求めれば西歐に於ては伊太利を筆頭として佛蘭西あり、澳地利匈牙利及西班牙がある、而して其產額は佛國里昂蠶絲商組合の調査に依れば、明治四十一年に於ては、九百二十五萬一千餘斤である、又東歐及中央亞細亞に於ては、アナトリヤ、西里亞、サイプラス、其他サロンカ、アドリヤノープル、勃爾加里、塞爾維及羅馬尼、希臘、クリート、高加索、波斯、土耳機斯坦等の諸國であつて、其產額は約四百四十八萬九千斤である、又東亞に於ては支那、日本及印度で、其輸出額は二千六百三十九萬三千餘斤であつて、總額は實に四千十三萬三千餘斤である。

世界生絲の產額は幾何

今最近十ヶ年間に於ける世界主要蠶絲國の生絲產額及輸出額を示せば左の如くである。

世界生絲產額累年表　單位斤

	總產額	日本	清國	伊太利	佛蘭西	其他
一八九九	六、四四〇、〇〇〇	四、八五四、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、九四〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
一九〇〇	六、六〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、九〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
一九〇一	六、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇二	六、二〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇三	六、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇四	六、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五	六、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六	六、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇七	六、六〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇八 平均	六、四〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
一九〇九 平均	六、四〇〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇	〇、八〇〇、〇〇〇	〇、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

又前表に基き主要蠶絲國に於ける最近十ヶ年間に於ける增加割合を見るに左表の如くであつて、世界の總產額は此間に三割六分（但し重複には輸出額に據る）を增し、本邦の輸出額は十一割五分を增して居る割合である。

世界生絲產額累年比較表

	總產額	日本	清國	伊太利	佛蘭西	其他
一八九九	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一九〇〇	九七〇	一〇六	八六〇	九七〇	一三一〇	九八〇
一九〇一	一〇九〇	一〇九〇	一〇九〇	一二八〇	一一七〇	一一四〇
一九〇二	一〇七〇	一三五〇	七六〇	一三五〇	一〇五〇	一一六〇
一九〇三	一〇〇〇	一〇〇〇	八三〇	八三〇	八五〇	一一〇〇
一九〇四	一〇六〇	一〇六五	一〇六〇	一〇六〇	一〇六〇	一一三〇
一九〇五	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一九〇六	一一八〇	六九〇	八一〇	一四一〇	一〇八〇	一二五〇
一九〇七	一二五〇	一八〇〇	七七〇	一四四〇	一一八〇	一二五〇
一九〇八	一二六〇	一一五〇	一四〇〇	一二三〇	一一七〇	一二五〇

蠶絲業者諸君に對する予の希望

世界蠶絲國に於ける生絲供給比較表

	總產額	日本	清國	伊太利	佛蘭西	其他
一八九九	一〇〇〇	二〇〇	四四〇	一九〇	三〇	一四〇
一九〇〇	一〇〇〇	一二四〇	三九〇	一二二〇	三〇	一四〇
一九〇一	一〇〇〇	二〇五〇	三一〇	一二一〇	三〇	一七〇
一九〇二	一〇〇〇	二〇八〇	三一〇	一二四〇	三〇	一八〇
一九〇三	一〇〇〇	二〇五〇	三二〇	一二四〇	三〇	一四〇
一九〇四	一〇〇〇	二〇九〇	二九〇	一二〇	三〇	一六〇
一九〇五	一〇〇〇	二〇六〇	二九〇	一二〇	三〇	一五〇
一九〇六	一〇〇〇	二〇九〇	三一〇	一九〇	三〇	一七〇
一九〇七	一〇〇〇	二〇六〇	三一〇	一九〇	三〇	一四〇
一九〇八	一〇〇〇	二〇四〇	三一〇	一九〇	三〇	一五〇
最近五ケ年平均	一〇〇〇	二〇六〇	三一〇	一九〇	三〇	一五〇

又世界總產額に對する主要蠶絲國の供給割合を示せば左表の如くである。

清國の輸出額は其主位を占め、日本の輸出額之に亞き、伊太利、佛蘭西の生產額亦之に亞ぎ、其他の諸國に於ては、僅かに一割五分（二厘を供給するに過ぎない譯である。然しながら支那及日本の輸出額を生產額に引直せば支那の生產額は調査の據るべきものがないから、元より正確ではないが、先づ內地消費額を輸出額と同等（本國組織の機械產業の發達の五割五分と見做さるる）と見なすならば、決して過大の見積りとは思ふ、果して過大の見積りなら方であろうと思ふ、然しながら內輪の見積り方であるとは、女那の產額は取り直さず、二千五百萬斤以上となり、本邦の產額は明治四十一年の統計に據れば少しく過少に失する嫌はあるが、先づ一千六百九十餘萬斤であるから、世界蠶絲の供給高即ち生產高は少くとも五千七百八十餘萬斤を下らざる勘定である、而して世界蠶絲の供給高は年に依つて多少の消長は免れないが、こゝ數年間は每年二百萬乃至三百餘萬斤の增加を示して居るのである、そして其の增加は主として東亞即ち支那及日本に於て增されて居ると謂ふてよいのである、今試に明治四十一年に於て世界主要蠶絲國の繭及生絲產額を比較表示すれば左の如くである。

世界主要蠶絲國に於ける繭及生絲產額表

國名	繭產額（換算生糸産額）	繭產額（生糸に換算した分）
支那	八〇〇〇〇〇〇〇〇	一三二〇七一〇〇〇〇
日本	六〇〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇一九一〇〇〇〇
伊太利	四四八〇〇〇〇〇	五三一九三〇〇〇〇
佛蘭西	六五〇〇〇〇〇	八四〇九一二九〇
アナトリヤ波斯土耳其斯坦	六一五〇〇〇〇	七五二七五八四
合計	一八〇〇〇〇〇〇〇〇	五二六〇〇〇〇（輸出乾繭二〇七七八〇〇

	總產額	日本	清國	伊太利	佛蘭西	其他
一八九九	一〇〇〇	二〇〇	四四〇	一九〇	三〇	一四〇
一九〇〇	一〇〇〇	一二四〇	三九〇	一二二〇	三〇	一四〇
一九〇一	一〇〇〇	二〇五〇	三一〇	一二一〇	三〇	一七〇
一九〇二	一〇〇〇	二〇八〇	三一〇	一二四〇	三〇	一八〇
一九〇三	一〇〇〇	二〇五〇	三二〇	一二四〇	三〇	一四〇
一九〇四	一〇〇〇	二〇九〇	二九〇	一二〇	三〇	一六〇
一九〇五	一〇〇〇	二〇六〇	二九〇	一二〇	三〇	一五〇
一九〇六	一〇〇〇	二〇九〇	三一〇	一九〇	三〇	一七〇
一九〇七	一〇〇〇	二〇六〇	三一〇	一九〇	三〇	一四〇
一九〇八	一〇〇〇	二〇四〇	三一〇	一九〇	三〇	一五〇
最近五ケ年平均	一〇〇〇	二〇六〇	三一〇	一九〇	三〇	一五〇

十露盤の桁を外づした遣方では……

今前表に基き、世界主要蠶絲生產國の產額と世界生絲の總產額との割合を示せば支那は其四割六分餘日本は約三割、伊太利は約一割一分餘と其他の諸國に於て一割一分餘を產出する狀況である、而して我國の產額は清國に比し及ばざること一割六七分であるが、兩國の輸出額に至りては前表に於て既に示せる處の如く、兩者互に伯仲の間にあつて世界蠶絲需要額の三割宛を供給しつゝある譯である、然し表料の原料としては勿論他の諸工業用としても遽然として頭角を顯はし、幾多絲を生產中、能く諸工業用と拮抗し得べきものなき今日に於て殆んど際限なるべく、而して此の趨勢は滔々として此の趨勢に應じ遺憾なく需要を充し得る國は先づ主として支那と日本とあるのみ

故　男爵　蜂須賀茂韶

長　男爵　蜂須賀正氏

高　知　藩

侯　爵　蜂須賀茂韶

サヴォイ、ピエモンテ、ヴェネチア、ロンバルディア、ピエモンテ、ルーマニア、ロシヤ、ポルトガル、ヴェルヴェット

ととなり、結局絲價の上昇の年柄にあつては、製絲家は相當の利益を收め得べきも絲價据置きの年柄に在つては殆んど骨折損に終り、又借金が殖やせるものの位に過ぎないのである、況んや絲價が新繭仕入當時より下落の年柄に於ては、全然損失に陥ることゝなるのであるから、製絲家たる者は將來の絲價を適確に豫想し、原料仕入を誤らざることが肝要である、然し之れは隨分無理な注文かは知れぬが少くとも新繭當時の時期に於ける絲價よりも高値に原料を仕入るゝが如きは適確なる見據付た場合の外は大に、或むべき事である、然るに人が五十掛で買ふから我も御文際に五十掛又は夫れ以に買ふと謂ふが如き非常識の違ひ方では何時迄たつても迂達のあがる潮はあるまい、それは其方で最初から、十露盤の術をはづれた違ひ方であるから絲價の尻跳の年柄には徒に伴にして多少然らざる年柄にあつては無論損失に了ることである。

天狗連が却て損する滑稽談

又養蠶家にも隨分と、天狗連が多く、養蠶の經濟方面には一向頓着なく、只繭を人より高價に賣つたと謂ふことを以て誇とし居る向が段々あつて、頑張製絲家は止むなく、呼値は四圓五拾錢以上でなければ賣らないと謂つて頑張製絲家は止むなく、呼値は四圓五拾錢で買はするが、それは十露盤が益々狂はづれとなるから掛目の方で多少手心を用ひざるを得ないことになつて來るのである、そして單のない天狗養蠶家は目方を多く持つて行かれたことには御氣が付かれず、譯さへ五拾錢高値に賣つたが、果して上等繭を得たと謂ふは、要するに養蠶が巧者であるからだと鼻高がして得意が上等の繭を得たと謂ふは、要するに養蠶が巧者であるからだ、其收支計算して見ると、其收支計算して見ると、其收支計算して見ると

石田君の放任育の反論論を讀みて所感を述ぶ

一概に粗放未開の法として擯斥する勿れ

予は去明治三十七八年に亘りて山梨縣に奉職したことがある、其際同縣南都留郡、北巨摩郡等に於て椪飼なるものを視察した、それ一種特別の飼法である、勞費を要すること甚だ寡く、それ一概に粗放未開の法として擯斥すべきものに非ざるを感じたから、當時これ對する卑見を本會報に登載して世人の注意を喚起せんと試みた、併も差したる反應を見ずして了つたやうである、只爾後一二回椪飼及これに類する方式に對して非難の雜誌上に顯れたるを記憶する計りである、明治三十八年秋山梨縣を去りて以來予は叉養蠶の盛んならざる地にのみ居を轉じ、再び椪飼なるものを實見せざりけれども其法の放て棄つべきに非ることを信ずるは今尚舊の如く然りてある。

腦に感じた一種の衝動

近頃大日本蠶絲會報第二百二十號を落手した、其目次を檢するに方り不思議に腦に一種の衝動を感ぜしめたものがある、石田孫太郎君の放任育の反對論なる論題即ちこれである、乃ち繙て本文を通れば縷々數千言にして、公平無私の意見を發表して餘蘊なきものゝやうである、而して其精粹は數年前予が本會報に於て發表したる椪飼に關する感想の精神と略ぼ一致してをる。

上段中央に佐々木博士

下段左端に故石田孫太郎

放任育の領域は益擴張せん

予だるもの尋此一致の所論に對して多少の感慨なきを得んやである、余は石田君に對して君が眞面目なる意見の發表の勞を多とせざるを得ない。

予は嘗て豆腐地方に行はるゝ放任育なるものと、甲州地方に行はるゝ椪飼なるものとの間に幾何の進歩の差あるを知らぬ、兎に角略同類のものたることは石田君の言によりて之を知ることを得た、而して放任育の主唱者たる戸倉悠兵衛氏は既に此法に就て十餘年の經驗を有し、併し參遠地に於ける放任育の實況は甚だ盛んにして、將來益々盛んならんとする傾向なりと聞きては、予は實に其然るを信ぜんと欲するのである、何となれば予は數年前同樣の現象を甲州に於て椪飼に就て見たことがあるからだ、同地方に於ける椪飼は定めて爾後不相變漸々其價値を攫張しつゝあるならんと想像する、元來蠶業の盛衰は收むること多き事業には如何に之が用止に力を盡すとも、遂に徒勞に屬すべきものである、故任育にして果して「反對されても養蠶家は殖へ、反對されても製絲家は高く買つて行く」の勢の持續する以上は放任育の領域は益々擴張せられんこと豈視易き理に非ずや。

放任育の前途多望

十九世紀、二十世紀産業の進歩は其すべてが大仕掛に經營せらるゝ、點に存する、養蠶業豈獨り此大勢の外に超然たらざるべけんや、からざるの現況は畢竟未だ方法に於て完備せざる所があるから、在り得るの理由があらうが、其多數は未だ方法に於て完備せざる所があるから、石田君の言によれば放任育にては女一人にて樂々と蟻量の七匁を飼育し得べしと、これによりて見れば此法は隨分活力を發現するに至るべきやを感ぜしむるのである。

要するに予は放任育の前途の多望なるを信ずるものである、其既往十年の歴史は將來の運命を卜するに足るものあるを信ぜんと欲するのである、但し余の想像の果して實際に適合すべきやの否やを判斷する力あるものは只將來に於ける五年十年の年月のみであらう、只予は此際養蠶に關係ある人士の此新法に大いに注意を拂はれんことを希望するのみである。

物理學會員　愛媛縣立農業學校教諭　池田榮太郎

雄蠶の生殖器發達の研究（承前）

今第一圖に就て雄生殖器附着部の構造を窺ふときは內部に旺に肥厚せる生殖器原基を包藏するを認め、是に幾く多量の

管状を分布して密氣を供給すると同時に、其位置を固定保護するの要を齎すのである、蓋し發達の盛んなる組織は從つて組織の變化盛んなるを以て、多量の空氣を要し、且つ又發達に伴ふて容積も膨大するが堅固に之を保定するの必要がないからである。

次に進んで此小蠶體を切斷して內部の構造を檢するときは、皮膚の層入より成りたる腺體なること恰も雌生殖器の第十一及第十二環節の存する二對の所謂石渡氏雌腺に相當し、別腺に於ける如くである、故に單に用着なる名稱を下すは不穩當であるから、故に單に用着なる名稱を下すは不穩當であるから、之に生殖器腺と名命せやうと思ふ、以下此腺を用いやう。

組織は蠶兒老熟して吐繭を始むるころになれば、該生殖器腺內の組織は、著しく發達し、是より々急激の發達を遂すのである、左に上張當日二日目、三日目に於ける腺內の變化を圖解して之を示さう、哺四日目に至れば、其同腺腺とも、見るべき結構組織の腺は、破綻して生殖器の內部は外に露出するに至るものである。

第三圖及び第四圖に就てよく內部發育の有樣を了解し得るであらう、即ちは生殖器腺は確かに皮膚の陷入より成る、所謂外胚葉より形成せられたるものであつて、蠶兒孵化の際既に生成せるものである、三齡起蠶の腺につき切斷するに、最初は淺く蠶兒の陷入し、上部二本に分れ、左右に開き少し下降し其端導管の基部に達し終るを見る、又皮膚の陷入より成ることは五齡起蠶の切斷圖（第三圖（四））によりて知る、從て內部には表皮の切斷圖（第三圖（四））によりて知る、從て內部には表皮の一部にはキチン皮をも之を存するのである、今上該

中の生殖器腺を取り、之を檢するに上族當日のものに於て既に複雜なる突起を生ずること三齡起蠶腺の切斷面と上族當日

第三圖

(一)上族三日目の生殖器腺
(二)上族三日目の生殖器腺
イ 導管
ロ 輸精管初期
ハ 生殖胞初期
ニ 生殖胞初期
ホ 陰茎基部開
ヘ 機械切期
ト 射精管初期
チ 皮膚
リ 被膜
ヌ 除茎筋入筋
肉初期

第四圖

(一)上族第三日目の生殖器腺横斷(上部)
(二)同 上 (下部)
皮膚二重となれば線となれども切斷せられたる部分なり
(三)同上扁平面と平行に縦斷
(四)上族三日目の生殖器腺扁平面と平行に縦斷
イ 腺室
ロ 生殖胞突起
ハ 除茎基部機械突起
ニ 筋肉初期
ホ 氣管
ヘ 導管

觀するときは內部發達の狀詳かに更に上族三日目のものにありては、生殖胞(交尾の際雌蛾の「キチン」板に引掛くる鈎)及び除茎の基部を圍繞する「キチン」板の初期を認め、又皆て突出せる輸精管初期の基部上方に粘液腺の突出を認むる、又

下方の中央よりは生殖孔(除茎の射精孔)の原入を始めつゝあるのを見のであるが、尙進んで之を扁平なる面と平行に之を縱斷して檢するときは內部組織の發達の狀態並に中「胚葉」より構成しつゝある除茎出入筋肉の初期其他の筋肉形成の狀をも明かに、觀察し得らるゝこと第四圖に於けるが如くである。

日本生絲改良の急務 (承前)

學士 農學士 足立元太郎

米國市場で伊國と競爭は出來まい

廣東の生絲は世界で最劣等のものとせられて有るが、此點*に付ては日本は廣東にも及ばないと云はねばならない、又米國の市場に於ける相場の上から我蚕優等の生絲と伊國の生絲と比較して見ると、昨年の七月より本年四月迄の處で左の通りて有つて、之又遺憾な次第と云はねばならぬのてありやす。

伊國飛切上一番

	日本刷四飛切上	伊國飛切上
月	円	円
四十二年七月	五弗十仙より五弗十五仙	五弗十仙より五弗十五仙
同 八 月	五弗十仙より五弗六十仙	五弗十仙より五弗六十仙
同 九 月	五弗五十仙より五弗六十仙	五弗五十仙より五弗六十仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
四十三年一月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗六十仙	四弗六十仙より四弗七十五仙

右の如くて伊國生絲の第三番目なる伊國飛切上と比して昨年七月と本年の二月が日本の飛切上の方が少し高く本年三四の兩月が同等て他は此三番目の伊國飛切に劣つて居る樣な始末である、こんな事では米國市場で伊國と競爭する事は到底出來ないのである、年一年に產額が增しても販路に乘ちのない樣にするには、是非共伊佛と競爭して我が販路を擴めねばならぬのであるが、伊佛と競爭するには彼等と同等或は以上の生絲を製造しなければならぬのではありませぬか。

伊國飛切

	日本刷四飛切上	伊國飛切上
月	円	円
四十二年七月	五弗十仙より五弗十五仙	五弗十仙より五弗十五仙
同 八 月	五弗十仙より五弗六十仙	五弗十仙より五弗六十仙
同 九 月	五弗五十仙より五弗六十仙	五弗五十仙より五弗六十仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
四十三年一月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十仙	四弗六十仙より四弗七十仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十四年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十五年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十六年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十七年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十八年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
四十九年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十一年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十二年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十三年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十四年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十五年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十六年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十七年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十八年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
五十九年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十一年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十二年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十三年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十四年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十五年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十六年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 三 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 四 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 五 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 六 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 七 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 八 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 九 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十 月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 十二月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
六十七年一月	四弗六十仙より四弗七十五仙	四弗六十仙より四弗七十五仙
同 二

「チデック」氏の批評と「リオドエロン」氏の忠告

近來米國で日本生絲を重に使用して居つた「リボン」が兎角面白く無い上に、編絲を綜絲に仕たる文織が上て流行の色に染むること、盛んに行はれて來たので、綜絲國なる日本の爲に大いに心配して奥れて居る米人も少く無いやうで有つて、私儀に日本生絲改良の必要を說くもあれば、紐育に關する雜誌に投じて日本生絲の改良を催すものもある、米國紐育業界に能く知られた「チデック」氏の如きは本生絲の改良の必要を說かれたが、氏が缺點とせらるゝ處は練度の均一ならざること、商標と合が信用すべからざること、正量即ち生絲檢査所の檢査目にて實の行はざること、伊國生絲は製產者に一年の產出高の全部でも先約し得ること、日本生絲は其一部でも前約することを製絲家の好まれざること、云々樣なことであつて、氏は一本綜になる生絲に付ては日本のきは非常なる注意を拂はなければ此種の生絲を製する能はざるなりと云はれて下の如き例を擧げた、日本生絲が改良されても、一千「ヤード」（約三千尺）に一ケ所位切斷し易き缺點があつても、之位の缺點は決して問題にも止められまい、が三十六時の大輸物には經絲一萬一千本を使用すれば、一千「ヤード」に二十ケ所切斷する割合にて、一「ヤード」三十分位に織上るものが一時間も掛ると云ふ樣な事に成る、故、如斯生絲はとても用に立たんので有と云はれた、然れども若し日本が充分信頼して一本經に使用し得る樣なる何時も同じ樣にせらるゝならば、米國は競て之を迎へるのであると云はれた、又「リオドエロン」と云ふ人は日本にも歐洲にも長く居つた人で、生絲の事は委しく、氏も日本生絲の改良は目下の急務なることを說かれ、改良上必要とせらるゝ八ケ條の要點を擧げて日本の爲めに謹で忠告すると云はれた、其八ケ條の要點中には日本の事情に合はぬ樣な處も有るが、抄譯して御覽に入るれば左の通りである。

第一　綿は現今行はるゝ如く地方を問はず一時を限らず買入れらるゝ事を止め春期秋期の二度に撰拔買をせられ之れを一等二等に撰み別けらるゝこと。

第二　工女は賞與に富めるものと然らざる者との二等に區別せられ一等綿は一等工女に之を製絲せしめ二等綿は二等工女に之を製絲せしめて注意し目的綿度より上下確かに四分の一以内のものを採り其以外の綿は一等絲に加へざること。

第七　掲載した樣な事は是非せねばならぬ事では無いが再繰の充分なる事の保證の爲必要とすること。

第八　充分撰別して等級を定められたる上は何時でも其等級の品位の變ぜざる樣せられねばならぬと之れは常に各等級の見本を備へ置かれて毎級見本ねと比べて見れば容易にこなし得べし。

大阪市千島町大阪製絲會社

兎角日本生絲に苦情が多い

右の樣な事で有るが、私は第三の箇條が充分に行はれて、第六の注意が肝いたならは日本生絲も大に面目を改め、經絲にも使用せらるゝ事であると存じます、日本生絲が經絲に使はれない缺點は、綿度の不均一と細班のあることが第一であります故、此缺點は除去されなければ一段の大進歩であります、若し第三の箇條が遵守されれば、右の二缺點は除かれます、而して第六が嚴重に行はれれば先づ伊國と競爭し得る事に成りませう、私は前にも申した通り、現今の上一を製造せらるゝ諸君が、せめて其產出額の三分一或は其以上右に申した處を採用せられ改良せられんことを希望します、又現今飛切以上の生絲を產出せらるゝ諸君も右の第三と第六に御注意あらんことを希望致します、近來米國に蠶絲檢査會社が出來ましてから、織屋も燃屋も爲め、鬼角日本生絲に苦情が多く、無切以上の生絲ですら意外の結果を見る事が

有ると申せば、又た近來生絲取引の上に苦情の多い處から左の如き格付品位の標準を造られたさうですから、御參考の爲め御覽に入れます。

紐育生絲格付品位標準

等級	再繰工賃	繰度の開き	節	度
伊國飛切上	百以上	〇	三〇〇〇	二割五分
同飛切	百以上	〇	四〇〇〇	二割分
同上一番	百	〇	五〇〇〇	二割二分
同一番	百以上	〇	六〇〇〇	二割分
日本飛切上	百以上	〇	四〇〇〇	二割分
同飛切	百以上	〇	五〇〇〇	二割一分
同上一番	九十	〇	六〇〇〇	二割九分
同一番	同一番より一番半	〇	七〇〇〇	一割八分
同一番半	八十	〇	八〇〇〇	一割八分
同一番半一番半	九十	〇	七〇〇〇	三〇〇〇
同一番半	八十	〇	八〇〇〇	三〇五〇
同一番半	九十	〇	九〇〇〇	一割九分
同一番半	八十	〇	九〇〇〇	一割八分

繰度の開きは繰糸工女の技倆に依る。

伊國飛切上と同等以上に改良が急務

白糸の事であるとすれば、日本在來の飛切上は、勿論新たに改良せらるゝ生絲でも、伊國飛切上と同等或は以上にせらるゝ事は餘り六ケ敷ことでも無い樣に思はれます、だが「生絲改良は六ケ敷は無い」が改良した處で夫れ程に買つてくれないでは無いか、又た買てくれたとしても現今の如く七拾圓やそこら高く買はれたのでは、夫こそ骨折損ではないかと云はれるでせう、が若し伊國飛切上と同等或は以上に改良が出來ますれば、米國市場で伊國と同樣なる價格で賣れることは御受合申すことが出來ると思ひます、と申すものは日本の飛切上は上一等の物の經糸用に適の經糸用生絲は例へば風穴が伊國の生絲に及ばない爲めに、一本經は例へば普通の經糸用生絲が多く使用せられ、此種の我國の生絲の賣方が遠くなつたからでは有るまいかと思はれます。

何にせよ日本生絲の改良は目下の急務で御座りますれば御熟考を願ひます、若し諸君の力に及ばぬと云ことであるならば、大に本會の助力を仰かれては如何です、若し本會が及ばぬなら、本會を經て政府の助力を仰がれては如何です。（完）

秋蠶の飼育は如何に勸奬せらるべきか

（承前）

特別會員　鳥羽久吾

從來各地に於ける秋蠶飼育の狀況を見るに多くは蠶種の需要上の都合から其飼育時機を定むる傾向がある、例へば風穴蠶種を飼育する所には其時期時日永き程養生の不良なるよりも可成早く秋蠶を飼育し、早は六月下旬より拵立て穴發生せしめんとし、早くは其實見蠶である、又た四化蠶若しくは晩秋蠶を製造するものは先づ蠶種を供給して養蠶家の好奇心に投ずるものが多い、斯る養蠶家は技術の拙なき拙

立に秩序なきものて幾分にても改良すれば全部利益の如く然して桑樹を害じ多くの時日を費し純益の少なきを知らない、斯る養蠶家に向つて適當の飼育時期を示し、之に從はしむるは斯業の發展上急務である。

秋蠶用桑樹の栽培は如何にすべきか

秋蠶專用桑の必要を唱ふるに至りしは最近數ケ年前よりである、秋蠶の飼育が盛に行はれて春蠶用桑園を新に擴せしむるに至つた理由は年一回の春蠶にては蠶經濟が成り立ぬから、桑園も蠶室蠶具も二回の使用をなす實利が此の趨勢を作たのである、完く春秋を區分して專用とすることは出來ない、然らば其春秋、夏用桑に對し、兼用とし專用とすべき割合は如何すべきか、又た用桑の摘葉、並に栽培法、專用桑の栽培法、桑種並に栽培法、桑園の植付株數千株も例へば密植可なりとすれば其一反歩に對し、其費用は如何に速成が果して密植なれば三千株も密植なり、其費用は如何に速成が果して利益ありて十數年の栽植が純益多きか植付さ種苗の骨桑か小牧か十文字か、何れか最も利益ありや、之等の試驗調査は府縣農事試驗場又は中央蠶業講習所等にて早晩研究して發表せらるべきことゝ信ずるも、未だ當業者に向て明示せるものなきは秋蠶の盛なる今日に於て其發表の遲たるを憾とする而も縣郡勸業の局にあたるものは大體にも速成桑園可なり骨桑實を投じて居る所もあり、又た何等かの實驗を經て居るものゝ如く多大の奬勵費を投じて居るに拘はらず、動くは動かざるに安きに走り、動くは足らずとは將に斯業の改發へば夫迄であるが、無駄骨折て

上陸、碍となる、此點につき蠶業者の注意を促すと共に研究せるもののあらば一日も早く公表を望むものである。

秋蠶の種類は如何に改良すべきか

目下繭糸一なる好題目を得て、我蠶業界は盛に論究せられて居る、其基非は暫く措き、繭質の糸一は如何なる繭糸か、現今の我生絲より見て上の良絲を得んとするが目的であらうと思ふ、單に繭質糸一も未だ不足と言ふべしと思ふ、然るに帝國蠶業の主眼は蠶種類の改良並に繭糸の整理である、此點につき何人も異論はなかつたが、此の蠶種類の改良整理を政府の專業とし、原ふ種を官營となさんとする議問機關として新設された生産調査會は此の蠶種類の改良整理を以て決議した、政友會が曾て帝國議會に建議した主文の如く、民間に委ねては此の整理が出來ぬであらうか、政治家の見るが如く我蠶業者は意氣地なく自から改善に努ずる能力なきか、官府の力を待ねば自家に直接影響する蠶種類の改良整理が出來ぬであらうか、予輩の信ずる所である、蠶種類の改良整理を以てすれば良種を得て養蠶家を滿足せしめ製絲家の便宜を計らんとは製種家の常に苦心して居る所であつて只如何なる產繭が製絲家乃至は生絲需要者の嗜好に投ずるか、此の標準がなきに迷ふて居る、此の標準に從ふべき種類にして公表せらるゝなれば何等の勸奬なくとも蠶種家は競ふて其種類の製造をなし、從つて統一せらるゝのである、一化性には七百餘の品種ありとされ、一化性の純良種を選定するは困難なるべきも已に之が選定を得れば普及は自から出來る

ことゝ思ふ、然るに世の統一論者は我邦生絲貿易の隆盛を圖るために繭質の統一論をじながら殆んど其產額の三分の一を占むる秋蠶種類の改良統一は不可能の事とし、若しくは必要なしとして除外して居る、七百餘種の二化蠶種が何故に統一が困難であらうか、秋蠶は獨り二三十年來の新蠶であるから、秋蠶の如く多くない、而し繭質の變異良否の差甚しきは一化蠶よりも多きやに思ふ、現に風穴種と生種とに於ける、飛白の如き、日本錦の如き、其絲質の異なる秋蠶種類の改良統一も無論唱へねばならぬのに、何故秋蠶種につきては論究を忘るのであるか、秋蠶には良種の標準が定まらぬのであるか、余輩は此點につき學者實業家の講究を望み、而して更に生絲の改良一致據とせる繭質統一法が蠶種の統一に終り蠶種の統一が名稱の統一に終り其實効果が毫も生絲の改良に及ぼさゞるが如き空漠たる議論に終らざることを願ふものである、其他秋蠶の改良につき指導奬勵すべき事項は多々ある蠶部の技術者養蠶業先覺者は如何なる方針により其所信を實行せしめんとするか。（完）

集芳

製絲上より見たる蠶の種類選擇

農學士 岡村龍七郎

蠶の種類の多きこと實に二百有餘へ勿論繭種にして中には同物異名もあるならんが）其の間一長一短或は甲を是とするあり、或は乙を是とするあり、何れにしても何か處かの點に於て特長あるには相違ない、若し然らざれば生物生存の原則として淘汰の鑄にかけられ、寂滅の域に陷らねばならぬから、繭の新しい點に蠶の廣告を見るに、はく健（全無毒）毒と、はく発疫性と、はく大具、曰く何々と其の能書の立派なること實驗の夫れよりも甚しい、然も其の內容を窺へば只時の流行に投じて顧客の注目を惹かうとするに外ならない、是製種家に於ては勉めて時流に合し、或は無暗に新現の種類を造り世人の好奇心に乘ぜやうとし、養蠶家に於ても其技術の巧拙氣候風土の如何により、自から其の選を異にするに至つた爲であらう。

か、此等は只其の道行のことに屬することであつて最終の目的ではない、されば種類の選擇は最も製絲に適すべき要件の範圍を脫せない、製絲上より見たる得失と其に其の良否を決定すべき要件でなければならぬ、左に項を分ちて其の得失を論ぜやう。

（一）形狀　繭の形狀は蠶の種類に依て殆んど一定し、又繭の解舒の良否は主に形狀の如何に關するものであるから、繭の形狀により蠶の種類を選擇することは甚だ肝要のことである、形狀の大小は絲綿の細太に影響することが多いもので、殆んど階級的に等差を有するものである、左に小石丸種に就き同一寸法のものを選り撰びて之れが一粒絲試驗を行ひ、其の內同大同絲長のものに付て其の纖度を秤つた成績を擧げてみやう。

一井位數	試驗位數	四百四平均繭數（丸）	平均デニール
四四〇	四八	一二八	二一四
四八〇	六一	一三三	二一五
五四〇	五五	一三四	二一六
五八〇	六九	一四〇	二一六
六三〇	六八	一三七	二一七
六三〇	六八	四四三	二一七
七〇〇	七〇	一四五	二一七
七八〇	七一	一五三	二一八
八六〇	四一	一四八	二一八

但し供試蠶に中位繭

右は單に同一種類間に於ける現象であるけれども異種類間に於ても亦殆んど如斯の關係を見るのである、故に去絲繰、繭には大形のものを可とし細絲には小形のものを可とする、來國向太絲は一升量平粒數にして三百粒內外のものであらう、又赤熟種の如き一升二百粒內外のものは絲尺長く強、伸力も甚かに繰絲稍劣め平易であつて製造費を要することが少いけれども、纖度太きに過ぎ絲色惡く優等心に乘ぜやうとし、養蠶家に於ても其技術の巧拙氣候風土の如何により、自から其の選を異にするに至つた爲であらう。

二、繭質　繭質の良否は其繭の繰糸に適するか否かを決定する要件である、繭質の良否は其繭の繰糸に適するか否かを決定する要件である、繭質の良否は其繭の繰糸に適するか否かを決定する要件である、

けれども、多くは種類によりて粗密の差がある、粗に過ぐるものは類節多く、又密に過ぐるものは解舒悪しく、絲尺短きの嫌がある、粗密其中を得んには其の條紋縦に通れる繭を撰ぶことが肝要である、緊緩に至ては飼育の如何に關係を有することが大きいものであるけれども、又多少種類により何れにか一方に傾き易き性質がなければならぬ、世に所謂石繭と稱して手觸りの粗硬なものは解舒悪しく去りとて柔軟に失すれば所謂浮き綿を生じ、甚しきは天然絮肌繭肌繭と稱し、類節多く、解舒悪しく揚り繭となるものが多い、故に繭の厚薄に關せず、緊緩宜しきを得て手觸りの軟滑なのを解舒が宜しいとする。

三、絲・長及繊度　繭の絲尺は可成長きを貴び、繊度は平均二「デニール」七八分乃至三「デニール」を以て適度とするのである。

四、強・伸力　強・伸力は勿論多いのを好むものであるけれども、天然の美質を害せざる限りは、何れも格別の差異のあるものではないから種類の良否を決定する一要件として數ふる程の必要はないやうであるけれども、獨り赤熟種のみは伸度が頗る大であるから經絲として適當であると機織業家間に稱せらるるのである。

是を要するに其の名稱の何たるを問はず、形狀緊・緩及び繊度其の宜しきを得て、絲尺長く強・伸力大なるものを選ばならば、而して其の蠶兒順る强壯にあつて不作の少いものならば假令桑葉を多食しても亦外觀の豐美なる繭を得ることが出來ないといつて何の憂ふることがあらう、元、來製絲上に於て最も嫌ふ所の繭は天候或は人爲を以て天然の美質を損ずるにあるのである、例へば上蔟中の温氣及び乾燥等の失敗の如き次は死竜繭の多きことである、繭肉の厚薄の如きは絲質の上に於て却て反對の現象を生ずるを見るのである即ち外觀のよい厚い繭は外觀悪しき、色澤劣れる生絲となる傾きがあるものにて、品評會の一粒繰試驗及び肉眼査定に於て一等賞を得る繭は必ずしも之を繰製して一等賞を得ることが出來ないのである、繭と生絲との關係實に如斯くである、蚕蠶上に於ても亦夫れ〳〵經驗の存することがあらうから、兎に角茲に製絲上より見たる選擇要件の概略を陳述し、以て大方の教を乞はんとする所以である。

蠶病消毒に就て（承前）

通常會員
石川縣農事試驗場技手　笠原熊三郎

フオルマリン消毒は温度と時間とに大關係を有す

元來フオルマリンの消毒は温度及濃度に大關係を有するもので、今卒倒病菌の芽胞（消毒試驗に使用する抵抗力の強き一般蠶）を殺菌絹絲に付着せしめて、之を濃度と温度とを異にせし「フオルマリン」液中に浸漬して消毒の程度を調査した成績を掲ぐれば左表の如くである。

濃度＼時間	一時五分	一時一〇	一時一五	一時二〇	一時三〇	一時四〇	二時〇	二時一〇	二時二〇	二時三〇	二時四〇	二時五〇	三時〇	三時一〇	三時二〇	三時三〇	三時四〇	三時五〇	四時〇	四時一〇	四時二〇	四時三〇	四時四〇	四時五〇	五時〇	五時一〇	五時二〇	五時三〇	五時四〇	五時五〇	六時〇	六時一〇	六時二〇	六時三〇	六時四〇	六時五〇	七時〇	七時一〇	七時二〇	七時三〇	七時四〇	七時五〇	八時〇	八時一〇	八時二〇	八時三〇	八時四〇	八時五〇	九時〇	九時一〇	九時二〇	九時三〇	九時四〇	九時五〇	一〇時〇	一〇時一〇	一〇時二〇	一〇時三〇	一〇時四〇	一〇時五〇
五%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
四%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
二%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

備考　表中十ノ符號あるものは消毒無効なるもの○の符號あるものは有効なるもの／符號は調査なき時間なるなり浸漬一時間より二十六時間に亞間は各區共三十分毎に調査したものであるが政府の要に差支へなき限りに於て簡略にした

右表に因て見るに一%の溶液で温度が華氏の五十度なれば二十六時間六十度なれば六時間半、七十度なれば一時間半、八十度なれば五十分、九十度なれば四十分百度なれば十五分百十度なれば十分間、百二十度なれば僅かに五分間で死ぬのである、從て蠶室に消毒する場合に於ても室温が平均八十度なれば接觸三時間、七十三度なれば六時間で消毒の効果があ

蠶病消毒に就て

る、夫れから、フォルマリン（蟻酸百四五十度位がよい）の稀釋液に湯（蟻酸高過ぎるとゴム質になる）を用ゐると著るしく消毒の効力を強めるもので戴回行ひし試驗の成績によると、平面積百平方尺に對し、フォルマリンの（紙對葉又は蟻酸アルコール百分の五）の紙對葉（即ち二十五瓦に紙對葉又は蟻酸アルコール四、五瓦使用す可き所を四瓦に減じても、猶且つ奏効確實なることを認めらるるのである、（普通蚕室に用ゐる硫黄の燻蒸は蚕室の温度が高くて、相當の温度を保つて一時間以上の事實に因て考へて見ると蠶病消毒の事情の許す限り、天然温度の高き季節に行ふ方がよいのである、所が從來の慣例として春蠶掃立前、即ち四月中旬より下旬に亘て行ふひつゝあるものが大多數を占めて居るのだが、之等のものは都合然温度の高き時行ふ樣にすると一層奏効が確實になるのであらう

金澤市兼六公園と望原熊三郎氏

化の配劑に因て之れ等病原細菌類は其通性として、一旦、宿主たる動物の體内を通過したものでないと、毒性（主として「とうしん」の如きもの）が極めて鈍いのと、加ふるに健康なる狀態にある蠶體にありては或る程度迄は外來の害敵たる微菌類を驅逐し得る機能を有して居る故、大した心配はないが、不幸にして虚弱な蠶兒であつて、所謂病に對する素因を有するものであると容易に病に冒され易いのである、夫れから偶へ强健なる蠶であつても、扱ひの不合理等よりして種々の誘因を與ふると、たとへ病原微生物の寄生はなくとも、往々發病することがあるのである、斯樣に蠶病の原因は極めて複雜なものであるから苟も敢行を確實なるものとしようと思つたならば、是非共完全なる蠶病消毒を施行すると同時に蠶種の選擇から貯蔵法は勿論、飼育法に至る迄十分なる注意を拂はなければならぬ。（完）

生絲の前途好望

在里昂領事より報告によんと生絲の前途に明るい希望をみる向きたゝ
本年の巴里の流行は初物に物器、高る模樣にて絲織物需要高は増加の
傾向あり來國似引支たりるも佐う理來に回復ヨベしと組絲の前途好望
なるが如し

本邦蠶絲業家の一考を煩はす

經濟に於ける日本人中の神商として生絲貿易に其事して名ある新井氏が今回歸朝して之國高級なる森村市左衛門氏の邸に歸寓せらるゝ事ゆ、日氏の勧めに應かれたい

新井領一郎

末續し　好個の現象

生絲貿易の話といつて格別御話するやうなこともありませぬ、相場に高低のあることは當然のことで行を呈するかは神樣でなければ判りません、併し本年新絲の生産は高くなつたから仕合です、製絲家も其積り原料を仕入れたせう、されば此末少し位絲價が安くなつても大した損も致しますまいし、之に反して高くなれば高くなる丈け夫れ丈け製絲家の懐合が都合良くなることであるから、マ

ア左程心配することはなからうと思ひます。生絲相場も昨年頃はズッと引立つてあらうと思つてをりましたが、未だに引立たない、此原因に就てはイロ〳〵說もあるやうですが、本絹織物とか絹織交織物とかといふやうな品の流行が最も大なる關係を持つて居るやうです、去三十九年に於ける米國經濟界の大恐慌などは疾に順調に復して今や頗る健全なる發達を爲してをりますから、絹物の需要は大に起らねばならぬと考へられますけれど流行といふことは是れ等には關係せんやうです、即ち流行せんと來たら知何に各自の手許の餘裕があつても顧みもせぬ代りに一度流行するとなつたら、少々位都合が惡くてもドシ〳〵買ひますから、獨り絹物許りではないけれども先づ絹物の需要の增減は一に流行に依つて支配せらるゝと見て良いてせう、昨年なども一時に流行に五六分位しか動いてをらなかつた、併し之も段々絹物の流行に遠れて動くやうになるてせうが、全部動くやうになつたら大變なものです、生絲などドノ位あつても皆消費されて仕舞ふといふやうになりますから……斯ういふ時機の到來ですか、サーイツ來るものか未來のことは判らぬが、早晩來るでせう、餘り徒に來るのは感心致しませぬ、其反動が恐ろしいですからなー、絹業界も既に滿三年不振の狀態も大分長く續きましたが、併し本絹や絹綿交織物の流行は大分磨つて來ました、夫と反對に絹物の需要は徐々に換起されて來るやうです、言葉を換ていへば健全なる發達を爲しつゝあるやうです、生絲の生産に努むるやうにせられたい。

日本の繭も立派に一本經の生絲が引ける

本年の生絲は一ッダ判らないけれども今日迄に見たところはドーも絲質が良くなるやうです、何れ此事に關しては他日充分調べた上で御話する機會があるかも知れませぬが、不幸にして絲質が昨年のものよりも劣るとすれば、其影響は少くないと考へます、殊に其絲質の不良といふことが、氣候などの關係から繭質の惡るかつた爲であるとすれば止むを得んことではあるが、若も此原因が此處に無くて、並絲とか優等絲との値開きが少い爲に良い絲を造つても詰らぬといふ考へから殊更にといふては語弊があるかも知れぬが之が製造上に餘り注意を拂はぬ結果であるとすれば或を鳴らして其不心得を責めねばならぬことです、一體並絲と優等絲とに百斤に對して二百圓の百五十圓のと差のあるうち第は無い、之は昔から今日迄の相場の變遷を御調べになれば直ちに判ることです、されば近年此値開きの甚しかつたのは全く一の變調であつて、六七十圓の値開きとなつた昨今の相場は寧ろ當然なので夫れを考へずに二百圓や百五十圓の値開きのあるものとして製造したら大變な間違ひです……といつたならば僅に五六十圓の差では良い絲を造つても算盤が持てぬといふ方があるかも知らぬが、六七十圓でも十年平均て見る時は優悟なれば又算盤の持てぬこともないでしやう、現に良い絲を造れるのに、夫を殊更に惡い品を造るといふことは全く製絲事業を投機的に經營するからです、之は決して永遠の策ではない、人は日本の繭では伊佛の繭のやうに本經に適する絲は到底引けぬと申しますけれど、私共が或る有力なる製絲家に特に頼んで引いて貰つた絲に就きて試織したところによりますと立派に一本經の生絲が出來るのであるから、徒に多產主義に流れずに永遠の信用といふことを考へて算盤の持てる限り良絲の生産に努むるやうにせられたい。

廣東絲に警告書を發した原因……支那は眠れる獅子

米國絹業協會が昨春廣東絲に對して警告書を發したことですが、之は排日思想が動機になつた譯ではありませぬ日米戰爭とか排日とか申しますけれども、米國人一般が斯かる考へを持つて居る譯ではなく、一部の人が何か爲にする所あつて喧しく云ふたのです、タトへば日米戰爭の如き前大戰大臣某氏が戰艦を造る所謂製艦費を議會に出して或は日米の間に戰爭があるかも知らぬなどゝ云つたのでありまして、排日問題の如きも全く或野心家が勞働者の御機嫌を取る爲に唱へしくいつたに過ぎないのであるから敢て意に介するに足らぬことです隨て是等の問題が日米通商上に差支へを生じはせぬかとの懸念は全くない杞憂であります、斯う考へて見ると彼の廣東絲に對して警告書を發した其動機が排日思想に在つて日本絲を買はぬやうにしやうといふ點にあるのであると解釋するのは全く一の誤解といはねばなりませぬ、といひましても彼の警告書を發するやうになつた動機を話さねば判らぬかも知らぬが、其動機といふのは、全く一昨年の廣東絲がイツもより非常に惡るかつたのにあるのです、日本絲ならば一

斤の燃賃三十四五仙で上るのに廣東絲は一弗以上の燃賃が掛るといつて口説いた位であります、ソコデスキンナー氏の後任となつて絹業協會長になりましたレード氏が私に或日相談せられまして廣東絲が餘り良くないから一つ警告書を發してみやうと思ふがどうであるといはれたのです、其時私は夫れは宜しくありませうと答へたのがツモ〳〵の起りで遂に絹業協會から彼の注意書を發するやうになつたのです……レード氏でありまして、此人は慾張でなか〳〵勢力のある人です、サー此レード氏の發意に成れる警告書は如何なる影響を與へたかといひますと、其後更に何等の反響もないといはねばなりませんと、依然として不良の生絲を輸出して居ります、然しソーかといつて日本の當業者は決して安心は出來ない、現在に何等の反響はないにした處で之が一つの動機となつて他日は日本の大恥辱です、此恥辱を眼前に控へたる日本の當業者が只目前の事のみ考へて良い絲を造るといふ考を持たなかつたなら必ず他日膺を噛て後悔するやうなことがありませう。

出來得べくんば法律でも造つて蠶種を統一せよ

私は此見地から此頃大分喧しい問題になつて居る彼の蠶種統一といふことに大賛成するのであります、絶對に蠶種を統一することは無論出來ますまいが併し出來得る丈け統一すれば統一の出來た丈け蠶賃も統一されるの譯でありますから絲賃も夫れ丈け楠ん人て良い絲が出來ることになりますし、從つて歐米の顧客も歓んで之を需要するから害のない程度に於て之が爲には法律を特に設けられても宜しいではないかとまで思ふてゐます、が併し私は婦人のことでもありますから未だ其蠶種統一問題が何れ程度迄進んで居るかが判らんから今は之に關する意見は遠慮なく發表しませんまするで何れ九月頃迄滞在する積りですから夫れ迄に充分調べてみたいと思ひます。

敵は本能寺……秋蠶に就て一段の研究

夫れに今一つ考へて貰ひたいと思ふことは彼の秋蠶であります、他日昇天の勢で秋蠶は發達するやうでありますが、日本生絲の非難の聲の近來殊に多くなつた原因は或は秋蠶は本能寺にありて政府も當業者も盛に奬勵しつゝある秋蠶其者にありはせぬかと考へて居ります、之は春蠶の絲だと之は秋蠶の絲だといつて別に區別して貰つても居らず買つても居りませんから果して秋蠶絲の爲に種々なる缺點が出て來るかどーかは未だ確に見屆け得ざるとではあるが、然し秋蠶絲が盛に出づる頃になると非難の聲も從つて多いやうであるから私共の方では秋蠶絲の出盛りになると可成生絲を買はぬやうにしてをります、といつて春蠶でも秋蠶でも飼へば飼つた丈け儲る、仝の都合の良くなるものを農家に之を飼育するなともいはれますまいから桑園を別に仕立てさせるとか、或は良蠶種の良いものを選擇して飼はしむるとか何とか方法を講じて之を好まぬのだ。

北米の移民と養蠶

新聞記者　金子眞成

在米二十三年一家の書生として苦しみ抜いた末、今は在米同胞第一の重鎮として仰がれる、金子氏が福者に語られた左の一篇、讀む者は情熱、戰慄、感激、恐怖の涙に打たれざる時呼米同胞五千萬の同胞は中二億萬の蠶絲業家にして米國の二分々の領収を忘れて可なるべき……

酔生夢死では牛馬にも劣る

子の今度渡て居る處は南加州のロースアンゼルスだ、ソコへ行つて今年で二十三年、予は其土地に於ける日本人として第一分々である、日本人とても居らぬ所で所謂辛苦を嘗め漸く今日に至つたが、今は多數の日本人も來て居る、子の絲營としてをる事業は果樹園、雜貨店であるが此外に、ホテルも一つ持つてをる、今日ではドーか斯うか飯を喰へに困る安もない、やうになつたから、今度は一つ帝國の一の新事業を起してみたいと考へて、政府當局者にも話し、實業國の重鎮人々にも話をしてをる、遊んで居ても面が殘へるといつて悠々爲す處もなく、所謂酔生夢死では、牛馬にも劣ると思ふから予は

不味い外交上の失敗

予の新事業……之は目下計劃中で未だ發表しない發表をすると既に戰争準備の出來たやうに新聞やなどに騒しく書き立てる、書き立てると世間で騒ぐ、之が爲に折角出來かゝつた事もツオ出來なくなるやうになること、往々ある、之は日本の新聞計りではなく外國の新聞にも能くあることで、彼の學童問題、排日問題など、根據を貰せばツマラぬことであるが、新聞が喧しく書き立てた結果政府當局者が大程なるものを重大視して、遂にアンな不味い外交上の大失敗をするやうなことになる。

排日の聲は日本人の成功から……

排日問題は何故に起つたか、日本人の成功が動機となつたのである、人は言ふ渡米者に成功する者が尠いと、蓋し之れは皮想の管見である、成程彼地に於て澤山の土地を所有し選擇權を有するといふ位の成功者は實に寥々たる者である、年去書生や浮浪者を除きたる他の勞働者にして多少の金を拵へぬ者はない、一ヶ月二十五弗か三十弗の働きをするとすれば日本の金にして五十圓とか六十圓を働くことになるから三年か五年の間辛棒すれば二千や三千の金は出來る、故に三百なり五百なりの間に資金をして渡米した人でも其借金は無論のこと其他の借金迄も返して仕舞ふとか、或は父母や妻子の養育料を送るとか、或は此貯蓄した金を資本として事業をする

かという様になるから、之等も矢張り一つの成功と見ねばならぬ、而して金を貯へて母國へ歸つて左り圍居て暮して居る人も決して尠くないのである、如此く日本人が着々成功するのを見たる白人等は嫉妬猜疑の念に駆られて決して良い感じを持たぬのである、タトへば茲に白人と日本人との洗濯屋があると假定する、處が勤勉にして能く艱難に堪へ轉ぜねばならぬようになるから、其白人は非常に不快の念を持つのである、之が即ち人情である斯かる白人等が三人と五人集ると日本人の悪口を盛に謂ふのて一大騒に吹へて萬犬實を傳ふるやうなことが、自然と重つて遂に排日の動機を造つたのである、されば排日の聲が高い丈け夫れ丈け日本人が成功した者と見ねばならぬ、彼の排日論を盛に唱ふる者は口逃とする處はイロ〳〵あるが、其内の一つの理由として日本の勞働者は白人勞働者の職を奪ふといふけれども全く嘘である、日本人勞働者の爲すべき仕事と白人勞働者の爲すべき仕事とは、能く分解がついて居る、故に日本人の勞働者あるが爲に白人勞働者が其職を失ふやうなことはないのである、夫を何故に白人勞働者が騒しく謂ふかといへばソコが即ち日本人が成功するからである日本人がイッ迄も一つの勞働者として金も溜めずに居れば彼等白人も歯牙にも掛けないが前述の如く大成功をせん迄にも小成功をする者が多いから忽ち嫉妬心を起して彼れ此ふのである、ソコへ一つの野心家が乗じて己が野心を貫かんが爲に勞働者を煽動するからアンナ大騒ぎをするやうなことになつたのである、排日の根據が金々茲にあるとすれば大なる問題の如くにして其實然らずて政府の手を煩らすとも民間の有力者同志で甘く解決のつかぬこともないのであつた、夫れを日本政府が除り狐狸して詰らぬ交渉をしたから騒ぎは益々大きくなつて我同胞の不利益なる條件を以て解決せねばならぬやうなことになつたのは、日本外交の一大失策にして在米同胞が千載の恨事とする處である。

米國に逃げ込む勞働者の惨狀

今日となつては我政府も大に後悔してをるであらうと思ふが、併し一度契約したことは後へは戻らぬので移民禁止の方針で渡米者を嚴重に監督して居るから、勞働者の渡米は容易のことではない、夫れでも各所の方面から少しづゝは這入るて仕れた者も尠くない、五人でメキシコを逃げ出したのが二人死んだとか、或は七人逃れが三人斃んだとかいつてもソンなことは彼等は平氣であるが、併し逃げ込む途中の慘狀を聞いて見れば實に氣の毒なもので、我同胞と思へば捨てゝもおかれず予が救ふて遣つた人も許りても尠くない、而して之等の人々は人生の最も悲慘な境遇に陥つて、所謂苦き經驗を嘗めて居るから、他へ紹介して遣つても多くは其成績が宜しい、屋主の方でも良いボーイを世話して貰つたと喜心感謝の念を伸ふの苦んだ者でなければ駄目であるといふことが

あるから、三日も四日も喰はず飲まずに居て、私の處へ來て仕れた者も尠くない、五人でメキシコを逃げ出したのが二人死んだとか、或は七人逃れが三人斃んだとかいつてもソンなことは彼等は平氣であるが、併し逃げ込む途中の慘狀を聞いて見れば實に氣の毒なもので、我同胞と思へば捨てゝもおかれず予が救ふて遣つた人も許りても尠くない、而して之等の人々は人生の最も悲慘な境遇に陥つて、所謂苦き經驗を嘗めて居るから、他へ紹介して遣つても多くは其成績が宜しい、屋主の方でも良いボーイを世話して貰つたと喜心感謝の念を伸ふの苦んだ者でなければ駄目であるといふことが

金子氏と同令夫人

のことではない、夫れでも各所の方面から少しづゝは這入るて仕れた者も尠くない、五人でメキシコを逃げ出したのが二人死んだとか、或は七人逃れが三人斃んだとかいつてもソンなことは彼等は平氣であるが、併し逃げ込む途中の慘狀を聞いて見れば實に氣の毒なもので、我同胞と思へば捨てゝもおかれず予が救ふて遣つた人も許りても尠くない、而して之等の人々は人生の最も悲慘な境遇に陥つて、所謂苦き經驗を嘗めて居るから、他へ紹介して遣つても多くは其成績が宜しい、屋主の方でも良いボーイを世話して貰つたと喜心感謝の念を伸ふの苦んだ者でなければ駄目であるといふことが

日本の貨幣と其價値に於て變りはないから、夫れ丈け安くなることである、メキシコの貨幣は御承知の如く日本で働らいて一日五十錢の者はメキシコでも矢張り五十錢さへ貰へばよいといふ風で何程働いても殘らぬのである故に日本勞働者は移民会社に募かれたのを後悔してコンな異境の天地で詰らぬ思をして暮すよりも米國へ行つた方が良いといふ者へを起し五人六人と團つて逃げて來るのである勿論國法を犯して侵入するのであるから普通の道は歩るけない、山を越へ谷を渡り、夜は野に伏して夜歩くといふやうに幾多の危險を犯して遣つて來る中には捕へられて入牢する者もあり、本國へ送還せらるゝ者もあるが、又中には死ぬ者もある、人里へ出ずれば直ちに捕へられる恐れが

我國民は移民に感謝して宜しい

先づコンなような驅梅に日本勞働者は危險を犯してまでも

這入らうとするがサテ其數は僅少である、之に反して歐羅巴から移働者の入込む數は非常者である、是等の移働者が各地に發展して仕舞た際には北米の天地は如何に變化するであらう、今の内に我同胞が移住して其根據を造り置かなければ、他日亦如何ともなすことが出來ないのであるから、我同胞は宜しく他に發展の地を求むべしである、此點に於て予は戒國に國民的移住の一事業を起さうと考へ既に當局に向つて贊成を得、既に其筋よりも調査に出掛けたことであるが、海民間有力者にも贊同せられんことを希望して止まぬことである、予の說明を待つまでもなく、加州一州ほどもない此土地の内に同胞がゴタ〳〵して居た處で小さい田の中に數萬の鯉を入れてあるやうに決して太るものではない、予は一月歸朝以來信州を始め其他の田舍を旅行して思はず落涙した、歐米の諸國では農家に依らず商家に依らず益々富の程度は增加するといふのに日本はソーでない、現に我郷里の如き三十年計り居らぬ間に無くなつた家が三四戶もある、憂つて居る農家はドーかといへば益〻貧乏をこそすれ富むどころではない、如何にして救濟すべきの農村は目に月に荒廢して行く、之を如何にして救濟すべきかが問題である、更に角面積の狹き割合に人口が多ほ過ぎるのであるから、海外移民より外に救濟の策が無いではないか、今既に海外に移住して居る人々から本國へ送る金額は決して尠少では無い、此送金あるが爲に彼等の家族が良い暮しをしてゐる、我政府は外債の利子を拂ふに於て正貨を外國へ送らぬも濟ひのである、されば彼等移民が人生の所謂報恩と新開して母國の爲に貢獻する効績も多いといはねばならぬ、我國民は宜しく基等移民に感謝して宜しいのである。

將來悲るべき國は米國

果して然らば滿韓に移住すべきか、將た濠洲地方に移住すべきか、此等の地方固より大に移住すべしであるが、予は是等の諸國よりも前途有望地あるを認むるのである、併し予は今茲に發表すべき時機にあらざるを信ずるが故に之を公言し得ぬが、渡米禁止の一條は我當局に於て一日も早く撤回さすべく努められんことを希望して止まぬのである、其故は既に前陳の事柄に依つて了解せらるゝことゝ思ふのであるが、茲に予は世界將來最も怖るべき國はイヅコと問はゞ米國であるといふことを一言して置きたいのである。

土地廣大肥沃にして凡ての生產物に富めること恐らく世界中米國の右に出る者はなからう、彼の荒漠たる原野が悉く開拓されたる暁には世界の市場に向つて如何なる物をも提供するに至るであらうから、此點より考へてみれば田尻博士の日本の現在と將來といふ著書に日本の蠶業の將來に於て最も怖るべき國は米國なりとせられたのは卓見であると予は思ふのである。

亞米利加の養蠶

成程米國に於ける蠶業は既往に於て悉く失敗の歷史を吾人に示してをる、現在に於ても亦然りである、乍併既往と現在とが失敗であるから將來も亦如此くなるべしとは痴人の夢で

ある、御承知の如く亞米利加には桑はないが、到る所に三本や五本の桑樹は植ゑられて居る之等は「マルベリー」といつて葉を取るのではなく實を喰ふ爲に植ゑられてをるのである、農民には日本の國の道位の立派なあつて其道の兩側には日本の國の如く行道樹の如くに桑が植ゑられてゐる、其桑の中には三三尺も廻るやうな大きなものもある、是等の桑葉は飲風と共に空しく枯れ落つるのであるが、若しも養蠶が良いふことになつて之等の桑を利用するやうになつたならば大したものであらう、二三年前合衆國政府は全國の各小學校へ蠶種を配布して生徒に四五四計りづゝ飼はしめ成績の最も優等なるものに賞與を與ふることにして一年は夏蠶を飼育せしめ一年は春蠶を飼育せしめた、其成績は良い所居て其蠶種の配布を受け飼育した、其成績は大に良かつたから賞與を貰つたのであるが、蠶の國の國たる日本人の子だものの良く出來ねばならぬ筈であるといふ評もあつた、兎に角如此く政府はかんかして養蠶をしたいと思つてイロ〳〵ッと有利の事業があるから行はれぬが將來人口の增加と共に土地が充分開拓せられた際には必ず道のやうになつて居る、而して彼れ米國人の器械といふことに對する智識の發達は非常なものであるから、日本人のやるやうに一枚づゝ紙の持ち揮しをしてやるやうに濟むやうに上から桑を切り落し、バラ〳〵と落ちる桑は器械的に箔の持ち揮しが出來て蠶の上にかゝるといふやうな工風をするに相違ない、斯くすれば日本で只今一人の人が一時間に五十枚の給桑をするとすれば、其器械裝置では千枚も出來るといふやうな風になるに相違ない、夫に何の苦なしに飼育することが出來るやうになるとも限らぬ、何の苦なしに飼育することが出來るやうになれば、アノ廣大な土地に又日本の二倍も桑の良く出來る土地で器械を應用して遣られた日には大變なことになる、之等は素人話としてではあるが決して一笑に附すべきことではないと思ふ、併し斯くなる迄に尙今後二十年乃至三十年を要することゝ思ふが本邦の養蠶業家も夫れ迄の間に充分奮鬪力を發へて呉れたいものである。

養蠶家の取るべき今後の方針（前承）

本會評議員
前代議士　南條吉左衞門

退くに退かれぬ板挾み……

如此く事柄は少しく思慮ある養蠶家は皆知つて居り乍ら多益々大養蠶を遣らうとして居るが、寔に之れ判らぬ話ではないか、とは云ふものゝ之れには惡くに退かれぬ板挾みといふやうな苦しい關係があるのである、苦しい關係とは何事であるか、實骨に云へば借金政略で養蠶をして居るといふことである、マー信州邊の養蠶家にして借金を持たぬ者は何人もない位であらう、ドーして借金をするであらうか、此原因は

決して一様ならないから、一概に斯ういふ原因からとはいはれぬが、絲況の不振より來る繭相場の下落等は慥に其主なる原因ではあるまいか、尤も今から十年前の繭相場は安かつたが當時の物價と賃銀とは今日のやうに高くはなかつた故に相當の利益も得られたのであるが、其後段々物價も賃銀も高くなつて來たけれども漸次昂騰して四圓臺より五圓臺より六圓臺に上り、去る四十年の如きは實に六圓臺に上つたのである、如此の場合に於ては一般養蠶家は今後の生計は一に蠶に組らざるべからずといふやうになり、之が爲に或は金部借金する者もあり、或は年賦の借金をする者もあつて翌年の蠶作を當て込て多少の負債を起して蠶室を新築し、蠶具を整へ、桑園を設備するやうな有樣であつたが昨年に至りて大に其當てが外れたといふ譯である、併し今年は安くつヲリ繭相場が下落したので大に其當てが外れたといふ譯であるが、併し今年は安くならない、高い賃銀を拵へて人手に任せては到底引き合ふものではない、ならば、高い賃銀を拵へて人手に任せては高くつてソーして繭が安いと來ては到底引き合ふものではない、借金を拵へて居てみればドーしても

〔島根縣内藤氏寄贈〕

〈島根縣出雲國幣殿薄(特野元信筆)夜景の景〉

手段を盡して規模を縮小し、眞面目に經營するやうにしては如何のものか、三百圓の借金を持つた人が之を返濟するが爲に一枚の蠶種五十圓の收獲とみて六七枚の蠶種を掃立てやうとするのは自然人情ではあるが、併し六枚を掃立て爲に人手に任せて仕上げるといふことになつて、家内に相當したる蠶種を掃立てたが、取り上げる金高は勝ても其算盤上の成績は僅に良いに相違ない、今日信州邊の狀態は養蠶が主業であつて普通農業が副業であるかの如く殆ど其位置を顚倒して居るが、予の意見以てすれば養蠶は元來農家の副業たるべきものであるから副業として經營するやうにしたいのである、副業として經營するに於ては掃立蠶種も減少し、桑園も縮小して家内同志で經營し得らるゝ位に止め、最も忙しき時期に於て少しの人夫を雇むといふ位にせねばならぬ事である、如此にして家内同志で經營すれば隅から隅迄注意が屆くから、同じ一反歩の桑園、同じ一枚の蠶種でも必ず非敢の優は人手に任するよりも多いに相違ない、而して勞力は自己の勞力なるが故に之に相當すべき賃銀は悉く自己の所有に歸するから、自然餘裕を生ずる事になるので、敢て繭相場の高きを希はずとも……即ち現在の繭相場で樂に經營して行く事が出來やうと思ふのである、何事も人手任せに遣つては甘く行くものではない、況して集約の上にも集約ならざるべからざる養蠶業に於てをやである、さればヨシ分間の桑園は草を生じ新築の蠶室は蜘蛛が巣を張らうとも此際大英斷を以て縮小主義を取り、以て着實なる經營をせられたいものである。

個人の經營を縮小して……普及的に

以上は信州の養蠶家を主としての意見であるけれども道理に一枚の蠶種五十圓の收獲とみて六七枚の蠶種を掃立てやうとするのは自然人情ではあるが、併し六枚を掃立て爲に人手に任せて仕上げるといふことになつて、家内に相當したる三枚位の蠶種を掃立てたが、取り上げる金高は勝ても其算盤上の成績は僅に良いに相違ない、今日信州邊の狀態は養蠶が主業であつて普通農業が副業であるかの如く殆ど其位置を顚倒して居るが、予の意見以てすれば養蠶は元來農家の副業たるべきものであるから副業として經營するやうにしたいのである、副業として經營するに於ては掃立蠶種も減少し、桑園も縮小して家内同志で經營し得らるゝ位に止め、最も忙しき時期に於て少しの人夫を雇むといふ位にせねばならぬ事である、如此にして家内同志で經營すれば隅から隅迄注意が屆くから、同じ一反歩の桑園、同じ一枚の蠶種でも必ず非敢の優は人手に任するよりも多いに相違ない、而して勞力は自己の勞力なるが故に之に相當すべき賃銀は悉く自己の所有に歸するから、自然餘裕を生ずる事になるので、敢て繭相場の高きを希はずとも……即ち現在の繭相場で樂に經營して行く事が出來やうと思ふのである、何事も人手任せに遣つては甘く行くものではない、況して集約の上にも集約ならざるべからざる養蠶業に於てをやである、さればヨシ分間の桑園は草を生じ新築の蠶室は蜘蛛が巣を張らうとも此際大英斷を以て縮小主義を取り、以て着實なる經營をせられたいものである。

養蠶業に於ては一般に一枚の蠶種を掃立てやうとするのは自然人情ではあるが、併し六枚を掃立て爲に人手に任せて仕上げるといふことになつて、家内に相當したる三枚位の蠶種を掃立てたが、取り上げる金高は勝ても其算盤上の成績は僅に良いに相違ない、今日信州邊の狀態は養蠶が主業であつて普通農業が副業であるかの如く殆ど其位置を顚倒して居るが、予の意見以てすれば養蠶は元來農家の副業たるべきものであるから副業として經營するやうにしたいのである、副業として經營するに於ては掃立蠶種も減少し、桑園も縮小して家内同志で經營し得らるゝ位に止め、最も忙しき時期に於て少しの人夫を雇むといふ位にせねばならぬ事である、如此にして家内同志で經營すれば隅から隅迄注意が屆くから、同じ一反歩の桑園、同じ一枚の蠶種でも必ず非敢の優は人手に任するよりも多いに相違ない、而して勞力は自己の勞力なるが故に之に相當すべき賃銀は悉く自己の所有に歸するから、自然餘裕を生ずる事になるので、敢て繭相場の高きを希はずとも……即ち現在の繭相場で樂に經營して行く事が出來やうと思ふのである、何事も人手任せに遣つては甘く行くものではない、況して集約の上にも集約ならざるべからざる養蠶業に於てをやである、さればヨシ分間の桑園は草を生じ新築の蠶室は蜘蛛が巣を張らうとも此際大英斷を以て縮小主義を取り、以て着實なる經營をせられたいものである。

に二つはないから、日本全國到る處の養蠶家に之を希望するのである、といつて予は全國の養蠶家を縮小せよといふのではない、個人の經營を縮小して其代りに養蠶の行はれぬ土地には普及的に之を奬勵せねばならぬといふのである、上信地方は殆ど奬勵の餘地なき迄に發達して居るけれども、他府縣に於てはマダ發達せぬ餘地なきに發達して居る、即ち個人〳〵の經營を縮小して、之を普及的に發達せしむれば更に其產額を增加せしめ、而して其品質は良好なものが得らるゝであらうと思ふのである、徒に大養蠶を行ふて不經濟のことをせんよりは小規模に經營して着實なる働きを爲し、天下の良民として眞に國力の增進に資するやうにしては如何、現狀に對して敢て默するに忍びず卑見を述べて養蠶家諸氏の反省を求むる次第である。（完）

北海道の蠶蛆

後來北海道には蠶蛆を見ざりしに昨年徹熱各地に發生し養蠶者は時なからず恐慌を來したが本年蠶況視察の檢査の結果蠶蛆驅除治法方法の遺憾なり出張せる蠶病獲防委員の檢査の結果蠶蛆驅除治法方法に於て七月の蠶蛆を例見したるうである

十六、鎮東松巷平民方に三十五圓蠶業株式會社に七圓小島病方氏方

蠶業株式會社

關西製絲界の春斗 衣川策之介君

卒先器械製絲場を建設す

君は兵庫縣氷上郡佐治村の人、天保十四年八月十日を以て其の地に生る、長じて頭健又よく産業の興隆に意を用ひたり、當時君が居村は蠶絲の業を以て重要なる業となせども繭も同様に育拙劣にして何等改良するところなく製絲の如きは極めて粗雑にして僅に手繰の術を守せるを以て未だ市場に其の輸出を決するの力なく、從て製絲業者は遠く年損失を蒙り其の結果は養蠶業に及びて養蠶の經營を爲すもの年々減ぜんとせり。君之を見て大に憤し明治十五年有志數名と謀りて氷上郡絲改良會を起し、以て郡内模範の製絲所たらしめんと企てたり。君が東奔西走の結果は遂に設立を見るに至りしかども、時倍も收繭に際せしを以て自家の一部を製絲に充て以て繭の器械を運轉せり。

君は氷上郡の蠶絲業は驚嘆の如き君によりて是より改良の緒に就かんとせるに、初年以來原繭を購入する毎に絲價下落し從て購繭すれば從て絲價下落し、損失巨額に達するを以て廢し會は遂に解散せり、社員の大半は早く既に業を破し、君私に思へらく「百年ざるべからざるの悲運に遭遇せり、君私に思へらく「百年の計業を興さんとせば則ち寵む、嘆夫れ之によりて開拓せらるべき本郡の蠶絲業の前途を奈何せんと」と、君喜悅措く能はず、倍々の勇氣を以て事に當り中道幾多の困難を排し、遂に村内小倉村に工場五棟を新設して甲六釜を設置し、改良會員と改稱し始めて桑蚕の奮志を達したり、茲に於てか郡内當業者の之を模倣するもの三十餘を數へ、資力なき者も尚來繰製絲を開始して郡内の蠶業全く其面目を一新するに至れり、之れ時運の然らしむるところなるべしと雖も亦君が百難苦闘より改良會員をして有終の美を濟さしめしに依らずんばあるべからず。

又氷上共同社を組織す

君が精力主義の率は氷上郡の蠶絲業をして一躍微位の地に進べしと雖も各自區々の販賣を爲せるを以て品質の統一を缺き所謂大量生産の實を擧げ得ざるを以て未だ外客の信用を

博するに至らず、君即ち信州開明社等の組織に則りて率先氷上共同社を組織し、共同揚返を爲すと同時に共同販賣の實を擧げんとせり。君乃ち衆に推されて社長となり爾來刻苦經營すること二十餘年明治四十年度に於て揚返場三ヶ處釜數三百八、加盟工場二十、釜數七百二十個の多きに達せり、其の間に於ける君が苦衷し察するに餘りあるものなるを覺ゆ、此の結果は製絲日に優秀となり第五回内國勸業博覽會に於て一等賞銀牌、セントルイス萬國博覽會に於て名譽金牌を受くるに至れり、あゝ君が百年の計則ち成れりといふべし。

社を變じて法人とす

君が經營せる共同社は錦々組織の歴史を揭ひつゝ成功の緒に着き會員の加盟するもの日に多きを加へ來れるより、君之を法人とし、團結の基礎を堅固ならしめんとし、遂に明治三十九年七月より產業組合法に基きて組織を變更し、無限責任生絲販賣信用組合氷上共同社と改め、君理事組合長として、遂に關西製絲界の巨擘たるに至れり。明治四十一年特に本會總裁殿下より其の功績を表彰せられしもの決して偶然にあらざるなり

本邦蠶界の偉勳者故高山長五郎君

造化の妙理を覺へて清溫育を發明す

一再ならざる失敗に会ゝ其勇を勵まし、たる君は同育の理法と技術完了あるに至れり、君は同育の理法を研究し、又支那三才會編、上州守國著、養蠶秘書（塚田與右衛門著）等同時に於ける公私の著書、記録を讀破して先覺の意を汲み日夜育法の新案を創出せんとかめたり。

君一日家蠶の祖先は野蠶なりとの記事に注目すること愛時膝を打つて獨語して曰く「是ある哉、家蠶の生活狀態を知らんと欲せば須らく野蠶の經過を詳にせざるべからず」と、即ち之より郊外に在て桑樹を培養の傍ら野蠶生活を仔細に觀察するに彼れ自活し繁殖して桑樹上に現れて桑葉を食するも天候一度變じて陰冷濕潤なるや忽ち業蔭に隱れ身の安全を保持し、以て空濶自由の天地に其生を遂る、君卒然として大に覺るところあり、造化の妙理即ち此點に存す、多年の宿望を遂ぐる亦近きにあらんと、更に工夫を凝し、失敗を繰ぬること前後六回、年を閲

すること文久元年より明治元年に至る八ヶ年、遂に一新理想育法を發明せり、是れ清温育なり。

千萬の非難に抗して遂に名聲を博す

君が刻苦研鑽の餘、發明せる清温育たるや、寒冷に遊へば火力を引き、温間を來せば火氣によりて清冷を將酌し、暖暑に過ぐれば室内を厲潤にして清涼鎮して以て蠶を飼ひ、暖暑に過ぐれば室内を厲潤にして清涼を防ぎ、乾枯を防ぎ、氣候の調節、寒暖の加減一つとして意の如くならざるなく、專ら蠶兒の發育に適するの法を研れり、而して之と相待ちて桑、時桑の設備を十分にし、調桑の法を改良し、桑の蠶技術に一新生面を開けり、彼の實桑の用法、深体の特技、起蠶の減量、長方形の刻桑及之に伴ふ獨特の飼育法の如き實に我蠶業界に一新生面を開けるものといふべし。君前後十有四年の辛酸を嘗めて遂に多年の宿願を成就したるより之によりて養蠶の改良を大成せんと欲せり、當時我國の蠶種は盛に海外に輸出せられて各地方の製造に盛に心し、奥州に武武に借して地方にありては天然の産育を主張すること等流派の競爭を亦其だ劇烈を極めたり、然れども邊蠶國作の悲報は絶えず人身を脅し養蠶家の多くは收繭の價は甚だしく低廉にして徒に年と共に債を負ふの有様なりしより、君が新案に成れる折衷育は温暖育にして蠶種は温暖育にして蠶種は常に年と共に進歩し、上武武に借して地方より迎へられたる一部の蠶種家は偏に我等家となし、盛に之が飼育法に非

改良高山社の設立

清温育の名一度君の名と共に聚傳せらるゝや、君の教を受けんと乞ふ者、君の法を聽かんと願ひ者、忽ち門前市を爲せり、然れども謙虚なる君、清温育は是れ一家の私法のみ、為ぞ人の師たるに堪へんや」と固辭して應ぜず、而かも人は去らずして懇請愈々急なり、乃ち君衆中誠實の心あるものを抽きて入門を許せり。

君が懇切なる指導と方法の改良とは門生の技術を著しく進めしより新に入門を乞ふものの日と してあらざるなく、繁劇漸く其度を加へ來りしのみならず其及べる地域も亦年と共に擴張せられしより獨力經營の不可を悟ふ新に高山組を組織し門生中技術優秀なるものを選抜して授業員となし、以て巡回教授の任に當らしめ、養蠶改良の基礎を定めたり然るに事業の進歩機張は驚くべき勢を以て進み、最早高山組の小規模を以てしては到底十分の活動を爲し得ざる迄に至り

難攻撃を加へたるより君が苦心の飼育法は時の蠶業界に於て蛇蝎視せられ、又如何ともすべからざる狀を示せり、君然れども屈せず益々其所信を貫かんと意を決し子を傷万罵の間に在りて親戚故舊の許に往來して清温育法を傳授せり、果せるかな君が苦心空しからず此等の識家者も漸々賛伴し、清温育の好結果は到るところに現れしより、君の名聲漸く揚り月と共に清温育の名は遠く近くに聚傳せらるゝに至れり、当時蠶界の爲めに苦心十幾年而して万罵の理に大成を期せるもの君にあらざれば又難い哉。

しより、十七年高山組を改めて養蠶改良高山社と爲し、其事務所及傳習所を多野郡藤岡町に移し君推されて社長となり、高山武十郎氏副社長に、町田菊次郎、古館仙松等の諸氏授業員となる、時に組合員百九十八人、授業員十三人、派出所二十三組なりとす。

偉勲者遂に逝く

君が、宿望漸く成て高山社の内部大方整へ、所及に傳習所の新築に着手し工を急きて内外共に工を起して事務所及に傳習所の新築に着手し工を急きて内外共に其完成を圖らんとせしに積しむべし、君病の爲めに隙しに又起たず、其病革るや令弟折茂藤太郎、木村九藏の兩氏及菊次郎氏に托し、高橋茂太郎氏を屠社長に推し、而して「遺言」を爲して後事を托し、後任社長を町田氏に托し「互に社務に精掌し業を樂しみ利を後にし、益々蠶業上の改良を遂げ國産を増殖して社運を高め全をして地下に瞑するを得しめよ之れ余が素志なり、又他に言ふことなし」と、句を遺して法筵として逝く。

桑の根に魂はとゞめて枯れにけり

君は忠臣楠氏七度生て忠を盡さんと遺して墓の爲に死す、君は肉亡ぶるも魂は桑根に止めて蠶界の爲に盡さんと誓ふ。

君の逝けるの正に明治十九年十二月、年五十七、當時君が愚妻に浴したる群馬、埼玉、栃木、鹿兒島、大分、長野の各縣に亘り社員の總數實に六百三十六人、其教を受け說を聽きたる者殆ど數千其に倣なりといふべし。

生絲商及製絲家に警告す

在越前　福島延惠

天保式の製絲家に望むものは何

米國に於て本邦生絲に向て苦情の多いことは今更多言する必要はないが、兩三年前と今日とを比較すれば苦情の減じたることは實に喜ばしきことである、之等は製絲家が注意周到なること及び當局者に於て奬勵非宜しきを得たる結果である而し多くの製絲家中には未だ舊慣に墨守して改良せざるものがある、之等の者には一日も早く改良し圓滑なる製絲經濟を享有してもらいたい、吾人の改良を願ふの意味は其だ多くあるが、差當り急務なのは製絲業として極小部分である、勿論生産品の精良とか切に吾人が希望する處であるが、天保式を以て甘じて居る母國の製絲家に向ては尖等の面倒のことは强

んでも駄目である、先づ其ことは息子の代となる成てからのことで、當り生絲の整理と云ふことである、此と事に關して生絲檢査所家は久しき以前より國庫より多くの金を支出して生絲檢査所なるものを設けて絲々繰繭して居ることは數千里の異鄉にある僕が言はんでも製絲家諸君は御承知のことである、又疾に先年より生絲檢査所は整理のことに就て注意を養成し且昨年より整理の良否を批評して製絲家に改良を促して居る樣である、之等は本邦生絲の爲めに最も喜ぶべきことである、又一方には製絲場に於ても自己の販賣せし生絲が整理の悪しきため經濟屋及び繭屋より直接苦情を申込まれて不利失を生じたために無る整理悪しきものを二度と買入れない樣に注意をし時には好意を以て製絲家に利害得失を說明して改良を促して居る故、種々の方面より整理改良を持掛けられしため、踏躊して居た製絲家も直接自己の利害に關係する故、改良を施しなるものも多い樣である。

整理の悪るい生絲は何故に買はぬか

以上の知く當局者及び貿易商より改良を促されし結果今は十中の八九迄は改良し居るが悪しいことには殘り一二の製絲家は實に嘆むべき悪癖に陷て居る。

何となれば同一の品物を十個並べて内九個は繰屋の好む品物で一個は好まざる品であるから、貿易商は其等九個の方を早くに手を出して繰屋の好まぬ一個は其儘放任して置く、處で市場は任せられた一個だけの品で他に品物がないとすれば、一旦捨た荷物でも已むを得ず、金を安棚入して買ふが、市場へは毎日幾百の生絲が出て來る故、一旦捨てた生絲に比べ買られんとは必ず五圓や十圓のさなる小、處で供給者側より買られんとは必ず五圓手を出さない、處で供給者側より買られんとは必ず五圓なるものと設けて絲々繰繭して居ることは數千里の異鄉にある僕が言はんでも製絲家諸君は御承知のことである、又疾に先年より生絲檢査所は整理のことに就て注意を養成し且昨年より整理の良否を批評して製絲家に改良を促して居る樣である、之等は本邦生絲の爲めに最も喜ぶべきことである、又一方には製絲場に於ても自己の販賣せし生絲が整理の悪しきため經濟屋及び繭屋より直接苦情を申込まれて不利失を生じたために無る整理悪しきものを二度と買入れない樣に注意をし時には好意を以て製絲家に利害得失を說明して改良を促して居る故、種々の方面より整理改良を持掛けられしため、踏躊して居た製絲家も直接自己の利害に關係する故、改良を施しなるものも多い樣である。

屋に十圓安の割で買たに成て宜しい、又繰繭に於ては整理の悪しいものと良いものとを比べ合すれば十圓や二十圓の差で請めば宜しいが、迚も清さない、何となれば米國は中々工賃が高い、普通の工女で一時間の賃金が十仙以上である、一日賃二十錢)、其で米國の一仙は日賃の二錢即ち日賃十圓は米賃五弗である、五弗を以て工女の勞働に傭ふ工女もあるが平均すれば六弗と云ふ樣に見て大差ない、即ち一日十時間働くものとして、五日間である、處で一依の絲を繰返すには工女の巧拙により異なるが假りに整理の良い生絲を工女の受持袋を百として悪いものを七十袋とすれば、三と二である、即ち良い方は三賃目繰すが悪いのは二賃目である、のみならず悪い方の絲には屑絲となる量が多く其上繰物として良い物は出來ない、斯る利害があるから、例へ拾圓安い生絲でも繰屋は好まない、何と云ふて生絲商に向て談判公談して來る、多くの場合は夫を承知の上で買ふ樣に成て居る、此は和當の力を以て卸値を取り換へるか、又は和當の力を以て卸値を取り換へるか、品物を取り換へる意のことであるから、品物を取り換へる意のことであるから、品物を取り換へる意のことであるから

る、未だ此等の事實は數が少ないことであるから、耳を開けて聽く人が少ないかも知れん損害を被らん前に警告して置くも更に不利ではない。

其害惡は本年四(五月)頃から發生した ことで二三月頃織屋が日本生絲には往々塵が屑を造て居るなど云ふた ことを耳にして居たが毛布か何を云ふか と自分で耳を聞て動かなかつたが、事實に於て目擊した以上は實に恐るべきものなることを今更感じた譯であるから總て生絲を扱ふ即ち製絲家より賣場商に至る迄大に注意して、不意損害を被むらぬ樣僕は切に希望して置く。

要するに生絲の整理を完全にすれば賣場商が喜んで買ふ從て其利益は自己の利益となること疑かなく式を見て信じて居る時とは時代が違ふから、早く改良し、且完成した生絲には統を付けず出來得る だけ利益を多くするのは自己の利益及び國家の利益であることを忘れてはならぬ、之僕が諸君に警告するを敢て辭さぬ所以である。

米國に於ける養蠶の成蹟

在米國シアトル 海外實業練習生 椎原廣男

サンデーゴーに於ける養蠶の成蹟

ウイリアムス夫人の實驗の結果に由るにサンデーゴーに於ては特別なる暖房裝置を要せずして能く周年孵化せしむべく一養蠶期間は三十六日間より四十六日間を普通とし、卵の九割五分は完全に孵化し得らる、而して其結果たる繭は百五十個乃至六百個を以て一封度となし得べく、若し繭を除けるものならば一封度に一千二百個を算する得べし、而して一個の繭より生ずべき絲の全長は一千ヤード乃至一千五百ヤードを以て普通とし、もし不注意に飼育せるものならば八百ヤードに過きずと云ふ、

佛國の例に由るに繭一封度は拾仙より拾仙と拾五仙に乾燥せるものは八拾仙より壹弗五拾仙なれば、合衆國に於ては更に此以上に達すべし、

カリフォルニヤ州に於て桑樹の適當種は普通カスタネオ桑と稱する伊太利種にして、今養蠶一期間の桑葉消費高左の如し（蠶四萬頭に對する）

	日數	毎日の量
第一齡	四	一〇、五、
第二齡	五	二二、五、
第三齡	五	三〇〇、
第四齡	五	六〇、
第五齡	八	一五〇、

平均總量

第一齡	一六二〇、五、
第二齡	一二五、
第三齡	三〇〇、
第四齡	一二〇〇、
第五齡	一六九五、
合計	一六九五、

左に掲ぐるはサンデーゴー測候所の一千九百八年に至る三十六年間の觀測の結果なり。

カリフォルニア州に於ける養蠶試驗の結果

カリフォルニア州農事試驗場に於ては最に養蠶の試驗を行ひ好結果を得たるも勞銀の著しく高きに由り一般營業として成立し難たく結論するに到りしが、一千九百六年サクラメントに於て黑澤喜五郎氏は本年五月か又は不明なり州園藝課の囑託を受けて此の試驗に從事せるも、氏は日本に於ても斯業に經驗なきを以て數次の失敗を經たる後相當なる成績を得たることは一千九百七年同課發行の報告書 Second Biennial Report of the Commissioner of Horthuntura of the State of California for 1905-1906 Sacramento, California 第二百六十一頁より第二百七十頁の間に在り、當時氏は當地に蓆の代用品なきが爲め、床を造るに麻草を煮乾せるものを使用せりと云ふ。

前者乃ち農事試驗場は桑港灣に臨める地に在りて、且つ四時濃霧多く、氣候變化し易く、試驗中腰爐を行ひしことと後者乃ち サンデーゴーは同じく氣候不同にして黑澤氏もストーブを使用せる等の事實なりとす。

左に掲ぐるは前記黑澤氏の成蹟表なり。

第壹齡

測候日	月	日	天候	溫度 屋内	溫度 屋外	桑葉數	給量	一日中の桑葉	開始	給桑法	備考	備考
1 st	四月	6	晴	64	50	3	5½ドラムス		1½	午前五時蠶放置	蔟	第一齡
2 nd	〃	7	朝曇	70	57				2½	午前八時床を換ふ場所を換蔟す	〃	〃
			〃	68	63	6	15 〃				〃	〃
			〃	72	48						〃	〃
			〃	72	52						〃	〃
			〃	64	44						〃	〃
3 rd	〃	8	〃	70	62	7	1オンス 7½ 〃		3½	午前九時床を換ふ同	〃	〃
			〃	67	52						〃	〃
			〃	67	48						〃	〃
4 th	〃	9	〃	73	74	7	1 〃 15½ 〃		4½	午前十時床を換ふ同	〃	〃
			〃	64	48						〃	〃
			〃	64	64	6	1 〃 14 〃		5 〃	午前九時	〃	〃
5 th	〃	10	〃	59	65						〃	〃
			〃	71	62						〃	〃
			〃	62	59						〃	〃
6 th	〃	11	〃	69	70	7	1 〃 1 〃		7 〃	午前十一時床を換ふ場所を弘む	〃	〃
			〃	64	54						〃	〃
			〃	70	52						〃	〃
7 th	〃	12	〃	70	59	1	6 〃		6 〃	午後十時間始床を換ふ	〃	〃
			〃	71	45					午前六時蠶運止む	〃	〃

合計

溫度 屋内	溫度 屋外	平均溫度 屋内	平均溫度 屋外	食餌時間	殺皮時間	給桑數	給桑法	繭の重量
443	329	63.5	49.0	155（五日十三時間）	33½（一日九時十五分間）	37	四ドラムス	一ポンド
466	466	70.0	66.5					
490	371	71.3	53.0					

	月 日	天 候	温度 屋内	温度 屋外	給桑回数	一日中の給桑量	毎回給桑量	備 考	面積
21 st	4月26	朝 晴	60	52					
		晨 〃	70	65	2	6オンス	12 グラム	午後食餌を始む	4
		夕 〃	69	50					
22 nd	〃 27	〃 〃	62	44					
		〃 〃	72	68	5	1封度6オンス12グラム	10 〃	午後三時床換へ場所を擴む	6
		〃 〃	64	49					
		〃 〃	65	47					
23 rd	〃 28	〃 〃	67	72	5	1 〃 6 〃 ½ 〃	11½ 〃	午前九時床換へ	6
		〃 蚕	70	59					
		〃 〃	64	56					
24 th	〃 29	〃 〃	70	70	6	1 〃 14 〃 6 〃	13½ 〃	午前八時床換へ	6
		〃 〃	69	53					
		〃 〃	53	58					
25 th	〃 30	〃 雨	70	62	5	2 〃 8 〃	12½ 〃	午前十時床換へ場所を擴め	8
		〃 蚕	68	57					
		〃 雨	58	53					
26 th	〃 31	〃 蚕	64	61	5	2 〃 2 〃 6 〃	13½ 〃	午前九時床換へ	8
		〃 〃	69	46					
		〃 晴	55	45					
27 th	5月 1	〃 〃	68	56	5	2 〃 2 〃 6 〃	13½ 〃	午前九時床換へ	8
		〃 〃	70	52				午後十時成蟲始より	
		〃 〃	63	46				床換へ	
28 th	〃 2	〃 〃	70	56	3	7 〃 1 〃 4 〃	11½ 〃	午前十時食餌	8
		〃 〃	72	52					
		〃 〃	70	47					
29 th	〃 3	〃 〃	71	57	0			鈹 皮	8
		〃 〃	72	52					

合 計

温度 屋内	温度 屋外	平均温度 屋内	平均温度 屋外	食餌時間	鈹皮時間	給桑回数	給桑量	毎百頭の重量
朝 550	448	62.1	69.8	164	51		41封度3オンス	
晨 622	570	69.1	63.3	(六日十八時間)	(二日六時間)	36	12½グラム	3オンス3½グラム
夕 623	475	69.2	52.8					

第五齢

	月 日	天 候	温度 屋内	温度 屋外	給桑回数	一日中の給桑量	毎回給桑量	備 考	面積
30 th	5月 4	朝 晴	70	47					
		晨 〃	72	72	2	¾封度	¾オンス	午後五時食餌を始む	8
		夕 〃	70	58					
31 st	〃 5	〃 〃	68	53					
		〃 〃	71	78	5	3 〃 2オンス	1 〃	午後八時床換へ場所を擴む	10
		〃 〃	70	58					
32 nd	〃 6	〃 〃	65	50				午後二時過数々甚すず一千八十尾場	
		〃 〃	71	78	4	5½ 〃	1½ 〃	所を擴く各九十尾を撒布す	12
		〃 〃	71	56					
33 rd	〃 7	〃 〃	67	50					
		〃 〃	70	76	4	6 〃 2 〃	2½ 〃	二度の床を換ふ朝夕二回す	12
		〃 〃	62	55					
34 th	〃 8	〃 〃	67	48					
		〃 〃	72	75	4	7½ 〃	2½ 〃	朝夕二回床換ふ	12
		〃 〃	68	57					
35 th	〃 9	〃 〃	68	55					
		〃 〃	71	75	4	7½ 〃	2½ 〃	〃 〃	
		〃 〃	71	64					
36 th	〃 10	〃 雨	71	57					
		〃 蚕	72	71	4	7 〃 13½ 〃	2½ 〃	〃 〃	12
		〃 〃	69	51					
37 th	〃 11	〃 晴	65	45					
		〃 〃	74	74	4	7½ 〃	2½ 〃	〃 〃	
		〃 〃	72	53					
38 th	〃 12	〃 〃	66	46					
		〃 〃	73	74	5	7½ 〃	2 〃	〃 〃	
		〃 〃	71	59					
39 th	〃 13	〃 〃	68	48					
		〃 〃	72	78	5	6½ 〃	2 〃	早朝成蟲を見て午後一時場所を狹む	
		〃 〃	68	58					
40 th	〃 14	〃 〃	64	50					
		〃 〃	75	80	5	4½ 〃	2 〃	午前十時場所を狹む午後六時凡て成蟲す	
		〃 〃	62	65					

合 計

温度 屋内	温度 屋外	平均温度 屋内	平均温度 屋外	食餌時間	鈹皮時間	給桑回数	給桑量	毎百成蟲の重量
朝 739	549	67.2	49.9	241			63封度1オンス	
晨 793	631	72.1	58.5	(十日一時間)	○	45	11オンス5グラム	
夕 767	643	64.3	57.9					

第弐齢

	月 日	天 候	温度 屋内	温度 屋外	給桑回数	一日中の給桑量	毎回給桑量	備 考	面積
8 th	4月13	朝 雨	60	43					
		晨 〃 蚕	72	50	3	10½ 15½ オンス	10½ グラム	午後三時十五分蟻調す	1 〃
		夕 〃 雨	75	50					
9 th	〃 14	〃 〃	64	41					
		〃 〃	72	52	5	2オンス15½ 〃	9½ 〃	午後六時床換へ	1½
		〃 〃	73	50				場所を擴む	
10 th	〃 15	〃 蚕	59	40					
		〃 晴	68	50	6	4 〃 12½ 〃	12½ 〃	午前十時床換へ	1½
		〃 〃	69	44				場所を擴む	
11 th	〃 16	〃 〃	69	36					
		〃 蚕	70	60	6	1 〃 14 〃	5 〃	午前六時半子尾を除き他を撒布す	
		〃 〃	67	49					
12 th	〃 17	〃 〃	65	44					
		〃 晴	70	57	6	2 〃 ½ 〃	5½ 〃	午後二時鈹皮を始む	
		〃 〃	64	42				床換へ	
13 th	〃 18	〃 〃	69	39					
		〃 〃	72	62	0			午後十時食餌止む	
		〃 〃	72	43				鈹 皮	

合 計

温度 屋内	温度 屋外	平均温度 屋内	平均温度 屋外	食餌時間	鈹皮時間	給桑回数	給桑量	毎百頭の重量
朝 377	345	62.8	40.5	102½				
晨 434	331	70.7	55.3	(四日六時間十五	36		13オンス10グラム	2グラム
夕 420	278	70.0	46.3	分間)	(一日中)	26		

第参齢

	月 日	天 候	温度 屋内	温度 屋外	給桑回数	一日中の給桑量	毎回給桑量	備 考	面積
14 th	4月19	朝 晴	57	35					
		晨 〃	74	65	4	1オンス12グラム	7 グラム	午前食餌を始む	
		夕 蚕	70	52					
15 th	〃 20	〃 雨	62	50					
		〃 〃	71	56	5	5 〃	8 〃	午前七時床換へ場所擴む	
		〃 〃	70	56					
16 th	〃 21	〃 蚕	65	53					
		〃 〃	72	62	5	5 〃 10 〃	9 〃	午前九時床換へ	
		〃 〃	67	55					
17 th	〃 22	〃 〃	64	53					
		〃 〃	70	72	5	9 〃 6 〃	7½ 〃	午前八時床換へ場所擴む	
		〃 晴	70	53					
18 th	〃 23	〃 蚕	60	52					
		〃 雨	71	59	6	14 〃 8 〃	9½ 〃	午前八時床換へ	
		〃 蚕	68	54					
19 th	〃 24	〃 晴	62	49					
		〃 蚕	72	39	3	6 〃 8 〃	9½ 〃	午後二時成蟲始床換へ午後七時	
		〃 〃	70	59				止食	
20 th	〃 25	〃 晴	60	53					
		〃 蚕	71	72	0			鈹 皮	
		〃 雨	70	58					

合 計

温度 屋内	温度 屋外	平均温度 屋内	平均温度 屋外	食餌時間	鈹皮時間	給桑回数	備考	毎百頭の重量
朝 431	315	61.5	49.3	125	46			
晨 507	450	71.5	64.3	(五日五時間)	(一日二十二時間)	28	2封度10オンス 12グラム	10½グラム
夕 609	388	61.3	55.4					

外人の見たる支那絹織物業

「ピュリテン、デ、ソワーエー、デ、ソワーター」所載

英國支那に於ける商會「ジエー、カムブフオール」商會「ジエー、カムブフオール」商會なるものは、多くの店員を支那内地に分遣して國の事情を探索するに全力を盡して居る。

けれども支那も漸次自ら其の産物を增加し來れると商況不振との爲、此の二商店の如きは近來は大分打撃を蒙つたのである。里昂から多く泥ぜ織の縮子、紋織紬、花紋織などを輸出する、尤も鰐子は「チュリヒ」逸よりも輸出する紋織紬は支那人が重に上衣に之を使用する。未だ支那で充分に製造することの出來ない絹リボンの輸入は多大なるものらしく思はれる、純絹リボンは「セン、テチエンヌ」から輸入する、女支那人向の商品を取扱ふ婦人のは餘程の困難である。泥織などは獨逸から輸入する、女支那人向の色合及び柄のは他國へ行て賣捌く事が出來ぬからである。之を要するに支那への絹織物輸出の發達は非常に困難である。唯、木綿、羊毛又は勤綾等の雜織物は多少成功の見込ある。支那人は現金拂を爲す支拂は品物引換に即時に爲すのである。

（終）

蔭買商人に注意せよ

新天和織物業の一端として述べておつた養蠶業の一端として述べるべきもの、蚕の生育に際しての注意事項は、既に本誌に掲載されたことがあるから、今日は蚕の生育に際しての注意事項を述べて、蚕の生育に際しての注意事項を述べて、蚕の生育に際しての注意事項を述べて、

越に於て如何様飼育の爲めに受くる疾客の程度如何を離むるのは、蠶種保護上頗る緊要の事項であり、因て余輩は之を顧めやうと思つて、明治三十七年及同四十二年の兩度に試驗を行つたから、其成績を摘記しやう。

明治三十七年度の試驗成績は如何

明治三十七年の試驗は東京蠶業講習所に於て、士族恩師の指導の下に行ふたのであるが、供試の蠶種は同所製造の新鮮種を用ゐぬ、六月十四日に產卵したものなり、產卵により發生に至るまで、次の各區に分つて試驗した。

第一區　標準として尋常の保護なすもの
第二區　產卵後直ちに五分間振動せしもの
第三區　產卵より一貫夜を經て五分間振動せしもの
第四區　產卵より二貫夜を經て五分間振動せしもの
第五區　產卵より三貫夜を經て五分間振動せしもの
第六區　產卵より四貫夜を經て五分間振動せしもの
第七區　產卵より五貫夜を經て五分間振動せしもの
第八區　產卵より六貫夜を經て五分間振動せしもの
第九區　產卵より七貫夜を經て五分間振動せしもの
第十區　產卵より八貫夜を經て五分間振動せしもの
第十一區　產卵より九貫夜を經て五分間振動せしもの
第十二區　產卵後直ちに十分間振動せしもの
第十三區　產卵後直ちに十分間振動せしもの
第十四區　產卵より一貫夜を經て十分間振動せしもの
第十五區　產卵より二貫夜を經て十分間振動せしもの
第十六區　產卵より三貫夜を經て十分間振動せしもの
第十七區　產卵より四貫夜を經て十分間振動せしもの
第十八區　產卵より五貫夜を經て十分間振動せしもの
第十九區　產卵より六貫夜を經て十分間振動せしもの
第二十區　產卵より七貫夜を經て十分間振動せしもの
第二十一區　產卵より八貫夜を經て十分間振動せしもの
第二十二區　產卵より九貫夜を經て十分間振動せしもの

第二十三區　產卵より十貫夜を經て十分間振動せしもの

振動の方法は長さ一尺の棒に、蠶想紙の一端を光結て固着し小棒の無端を持つて五分間振動の各區は、食指を以て棒を輕打し、十分間振動の各區は洋刀の柄を以て棒を強く打つた。而して打擊の速度は一分間二百打を目的としたのである。振動時間以外に於ては、總て尋常の保護を與へたが、六月二十五日に至つて、發生したから同日午前十時に組立を行ふた左に發生の狀況を示さう。

區別	目標	總卵數	第一日發生卵數	第二日發生卵數	第三日發生卵數	死卵數	百分率
第一區		二三一六	一八二三	五八		一二六	五四
第二區		二一四七	一八七一	二二四		二四四	
第三區		二一二二	一八九一	一九一		四〇	一九
第四區		一九七六	一四七二	四八一		一三	〇七
第五區		二六三五	二三五五	二五八		一三	〇八
第六區		二二七三	二〇七〇	一七七		一〇六	〇八
第七區		二一五四	一二九一	一〇八		一二三	四二
第八區		二四六一	二三一六	三二		一一〇	四六
第九區		二一三五	一一九九	三四		二一三	一一〇
第十區		二六八一	二一二八	三一三		二一五	一一〇
第十一區		一七二一	一三五〇	三五三		一九	一一〇
第十二區		二一五七	一一八五	一六五		一一〇	六四
第十三區		二二六三	二一六六	二〇〇		二三七	一一九
第十四區		一八九一	一一五八	二九八		一四八	一一九
第十五區		二〇六三	一一五一	二九八		一五	〇三
第十六區		二〇二六	一一七四	二七四	四八	八	〇三
第十七區		二〇二〇	一一七二	二〇〇	三四	二三	一七
第十八區		一八一二	一一六四	一六六		一四九	一〇
第十九區		一五九五	一一三五	一〇〇		一〇四	五三
第二十區		一八〇四	一一四七	一〇三		一〇四	九六
第二十一區		一九一三	一一八五	一〇二		一〇八	一二
第二十二區		二〇七九	一一七九二	五四		一〇八	一二

區別	目標	收穫總量	上繭中重量	上繭一升重量	對上繭一升重量	自然乾燥繭數	減繭數
第一區		三七八六	二六二〇	一六〇	三一	三一	八一
第二區		三五五三	二三五八	二九一	一〇六	八一	七〇
第三區		三二六八	二一六〇	二九三	一〇一	六四	六四
第四區		三一二〇	二一四五	二九二	一〇一	八四	四〇
第五區		三四八七	二五二一	二九三	一〇三	七一	七一
第六區		三三二六	二三二〇	二八六	一〇二	五三	
第七區		三一八六	二五六〇	二九八	一〇五		
第八區		三二六一	二三三二	二七九	一〇六		
第九區		二九六五	二一八四	三〇〇	一〇四		
第十區		三一四五	二一九五	二九九	一五五		
第十一區		三二六〇	二四四〇	二九八	一〇二		
第十二區		三一四〇	一九三〇	二七九	一〇二		
第十三區		三一四〇	二四四〇	二四八	九四		

區別	目標	收穫總量	上繭中重量	上繭一升重量	對上繭一升重量	自然乾燥繭數	減繭數
第十四區		二九四一	一九八七	九〇	二七		
第十五區		三〇七九	二二九五	九八	三一〇		
第十六區		三一八六	二四四〇	九九	二八一		
第十七區		三一六〇	二四四〇	一〇二	二九六		
第十八區		三一三五	二五八〇	一〇四	二八〇		
第十九區		二六五五	二〇三〇	一〇四	二九五		
第二十區		三〇九二	二四一三	一〇三	二九八		
第二十一區		三四五一	二五七〇	一〇二	二九九		
第二十二區							
第二十三區		二九四一	一九八七	九〇	二七五	一五八	
第十四區		三〇七九	二二九五	九八	三一〇	六八	
第十五區		三一八六	二四四〇	九九	二八一	八六	
第十六區		三一六〇	二四四〇	一〇二	二九六	八六	
第十七區		三一三五	二五八〇	一〇四	二八〇	一〇四	
第十八區		二六五五	二〇三〇	一〇四	二九五	一〇四	
第十九區		三〇九二	二四一三	一〇三	二九八	一〇四	
第二十區		三四五一	二五七〇	一〇二	二九九	一〇二	
第二十一區						一〇八	
第二十二區						一〇八	
第二十三區						六〇	

前表に示すやうに、發生の三日間に罹つたのは、第四區及第十四區で其他の各區は、悉く二日間に發生して敢て標準區と差がなかつた、死卵の多かつたのは、第十二區及標準區であつて、第七區第八區第九區は、之れに反して少なく見るときは、振動を與へ、わ標準區であつても、死卵が多いから、死卵の多寡は、蠶種の振動と關係がないことが列る。

緯立只後は普通の方法によつて飼育し、第二振動含後起原沙を行ふときに、第一齢中の減蠶數を調査して、試驗の便を計らうと思つて、各區の飼育蠶數を二千頭つゞけにした。

第一齢により上族に至る迄の間の蠶兒發育の狀況は、各區とも其差異を認むることが出來ない位に何れも皆風る強壯活潑なる經過なりたが、各齢に於ける卵量は、標準區は常に重く、第十三區第十四區第六區は之れに惡き、最も輕いのは第二十二區即ち產卵後九日目に於て、十分間振動せしものである、尙左に成績の一部を示さう。

區別	目標	收穫總量	上繭中重量	上繭一升重量	對上繭一升重量	自然乾燥繭數	減繭數
第十四區		三一四〇	二四四〇	九四			
第十五區		三一四〇	二四四〇	一九三〇			
第十六區		三一六〇	二四四〇	一九四〇			
第十七區		三一三五	二五八〇	一九一〇			
第十八區		二六五五	二〇三〇	一九三〇			
第十九區		三〇九二	二四一三	一九二〇			
第二十區		三四五一	二五七〇	一九二〇			
第二十一區							
第二十二區							
第二十三區		二九四一	一九八七	九〇	二七五	一五八	
第十四區		三〇七九	二二九五	九八	三一〇	六八	
第十五區		三一八六	二四四〇	九九	二八一	八六	
第十六區		三一六〇	二四四〇	一〇二	二九六	八六	
第十七區		三一三五	二五八〇	一〇四	二八〇	一〇四	
第十八區		二六五五	二〇三〇	一〇四	二九五	一〇四	
第十九區		三〇九二	二四一三	一〇三	二九八	一〇四	
第二十區		三四五一	二五七〇	一〇二	二九九	一〇二	
第二十一區						一〇八	
第二十二區						一〇八	
第二十三區						六〇	

右の表に示すやうに、收穫の最も多いのは標準區であつて第六區第二十三區は之れに惡き、第十四區第十區は劣等であつて、上繭の少なかつたのは、第十三區及第十四區である。

明治四十二年度の試驗成績は如何

明治四十二年の試驗は當講習所に於て、行ふたのであるが、昨四十二年七月十九日に當所製造の二化性新母種を取り、前試驗と同樣なる方法によつて、二十分間振動を與へ、爾後普通の方法を以て取扱なし、蛹胄の狀況發生及飼育中の經過等を詳細に試驗した、左に其成績の一端を表記しやう。

第一區　標準として振動せざるもの
第二區　產卵後直に二十分間振動せしもの
第三區　產卵後一貫夜を經て二十分間振動せしもの
第四區　產卵後二貫夜を經て二十分間振動せしもの
第五區　產卵後三貫夜を經て二十分間振動せしもの
第六區　產卵後四貫夜を經て二十分間振動せしもの
第七區　產卵後五貫夜を經て二十分間振動せしもの
第八區　產卵後六貫夜を經て二十分間振動せしもの
第九區　產卵後七貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十區　產卵後八貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十一區　產卵後九貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十二區　產卵後十貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十三區　產卵後十一貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十四區　產卵後十二貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十五區　產卵後十三貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十六區　產卵後十四貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十七區　產卵後十五貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十八區　產卵後十六貫夜を經て二十分間振動せしもの
第十九區　產卵後十七貫夜を經て二十分間振動せしもの
第二十區　產卵後十八貫夜を經て二十分間振動せしもの
第二十一區　產卵後十九貫夜を經て二十分間振動せしもの

試驗

附して其成績は左の如しである

区別	目標数	初日發生二日目	發育盛期	發育終期	死卵数	孵化数	孵化率	蚕病	蚕数	蚕病率	減少蚕数	減少率	繭収穫数	繭収穫率
第一区	三〇七	一	二	一	四	三〇三	九八・六	八	二九五	九六・〇	一〇	三・二	二九二	九五・〇
第二区	五〇五	一	二	三	六	四九九	九八・八	八	四八八	九六・〇	一一	二・二	四八八	九六・〇
第三区	五〇〇	一	一	一	四	四九六	九八・四	三	四九五	九八・〇	一	〇・二	四九四	九八・〇
第四区	三九九	三	九	九	四	三九五	九八・〇	一	三九二	九八・〇	三	〇・七	三九二	九八・〇
第五区	三五七	三	四	三	一	三五六	九八・〇	一	三五〇	九八・〇	六	一・七	三四四	九七・八
第六区	三六六	三	一	一	一	三六五	九八・〇	一	三六四	九八・〇	一	〇・三	三六三	九八・〇
第七区	三四三	七	一	一	四	三三九	九七・七	一	三三八	九七・四	一	〇・三	三三七	九七・四
第八区	三四三	七	九	三	一	三四二	九七・四	一	三四一	九七・二	一	〇・三	三四〇	九七・〇
第九区	三五一	七	三	三	一	三五〇	九七・一	一	三五〇	九七・一	一	〇・三	三四九	九七・〇
第十区	三六一	七	一	一	一	三六〇	九七・二	一	三五九	九七・〇	一	〇・三	三五八	九七・〇
第十一区	三三四	七	一	一	四	三三〇	九七・〇	一	三二九	九六・八	一	〇・三	三二八	九六・八
第十二区	三四七	七	二	二	四	三四五	九八・〇	一	三四四	九八・〇	一	〇・三	三四三	九八・〇
第十三区	三四四	七	二	二	四	三四〇	九八・〇	一	三四〇	九八・〇	一	〇・三	三四〇	九八・〇

前表の如く其發生各区区区

秋蠶飼育の發達が最も因なられと思ふ。而して秋蠶中風穴種の增加は全國の大部分を占めて居る。蠶つて近年各地に風穴蠶種貯藏所が設けられて、其れに依托する種になつた。然れ共蠶種の生理を考して不發生若くは幾多の死亡を生ずることがある。之れ全く蠶種の生理を考して不適生所に置かれた所為である。即ち昨年即明治四年氷室の中町田助五郎氏の調査に依れば、第一期蠶種の孵化後三十七日を経て、翌年二月蠶種を貯藏し、七月に再び出庫して蠶兒の發生を試みたる結果、第二期蠶種の孵化後三十五日を経て、翌年三月蠶種を貯藏し、七月に再び出庫して蠶兒の發生及發育狀況を試みたる處、所信の如く上結果を得た、以來蠶種を信用して居る之に即ち氷室蠶種貯藏の賜矣であらう。

氷室蠶種貯藏は世界的事業である

何れの地方でも氷の製造し、若くは之を販賣する都會に於て氷の貯藏庫を設けざる所なからう、然る故に此氷室を利用したなら、全國は勿論外國に於ても建設し人爲なる人工春及秋の區別なく經營者の目的に由り、氷室を利用せざる處の安全なる蠶兒を養ふことを得るのである、依之觀之貯藏の生理を考ずる利益外の關係を利用して、少資多獲の利益を收め、國家有望の事業となつて世界なる利益をもつよも敢て過言にあらざることを信じて居る。

建設費が少なくて多數の貯藏が出來る

蠶種貯藏室の外圍は即ち氷室で、東西に長く間口五間奥行十間に達し、四方厚壁となし、氷を貯藏して敷寳を蓄して居る、此内部の四方に蠶種の貯藏室を設け室は間口十尺奥行七五尺あつて、地上三尺凸出し、地下四尺餘下げて室内の高さは七尺である、而して之れが建設費は僅かに家利より四百五十圓を要したのみで、蠶種は二百枚の箱百二十個を收容し得らるゝの設備であから、平付蠶種二萬四千枚の貯藏が出來る。

温度の變動が無くて生理を害さない

風穴秋蠶種の蠶兒は領雖にして病々安全なり之雖も、偶り發生の不充分なる蠶種を生じ、爲に經營者に苦心煩惱して、後遂に失敗に終ることがある。是れ朝無苦健全なる蠶種なりしものも、風穴内の氣温及貯藏法の關係に依つて生理を害せられ、卵子は發育しても孵化すれども、發生するの氣力がなく、終に斃死するものがある。斯かる狀態なるが故に被害を免かれる蠶種も、自然の抵抗力が減退して虚弱となり、終に病毒の宿生し易き體質と變化するであらう、然るに氷室は貯藏庫氏の調査に於ては、蠶種は孵化後三十二度より三十七度なる温度を越ゆることがなく、爲に蠶種に暗んと休眠狀態なる體質して、不發生の蠶兒を製造することなく、從つて孵立後の發育狀況は其強壯なる點に於て一歩も他に讓らざるの說明らかである。

温度が低いから温氣の害がない

前項に述べたる如く室内は低温であるなれば、蠶種は休眠狀態なること明らかなる故に、田中氏は年々室内水分の下垂たれ居る場所に吊下し置き、七月中旬蠶兒發生の狀況より發育の程度に至るまで試驗だ、結果は他の蠶種と殊しく少しも異變がない、依之觀れば華氏温度三十七、八度に存する蠶種は、巻も温氣の害を蒙ることが如き觀がある。

掃立時期は何時にても宜い

風穴蠶種の掃立時期は風穴の構造及其所に由ると雖も、概して第四期一定して居る、然れ共氷室に貯藏して蠶種は之に反して居る、但氷室蠶種の生理上に及ぼす影響が軽微になり、且氷室なる故に概して人車交通の便が宜し、桑葉の伸長程度及び發多の故障なる時期を見計ひ、何時にても掃立て得るの便があるから比較的有益が少なく、隨つて充分なる手入れも出來て、豐富なる養蠶の為に得るの利益が著大である。

夏秋蠶の遊作が尠ない

秋蠶の遊作する所以のものは生種の如き生産額の少なく割合には、全國の需要が多く、從つて粗悪の蠶種を製造せしむるの動機多く與へて居る、然りと雖も與来た一般の供給に應ずるこの多く生成せしめなければならぬ、是に於て赤蟻突全なる貯藏庫が要である、然れど必要なる蠶種は遺憾ながら發生し後健康なる蠶種は製造せしむるの必要となり、結局には國家强の源泉たる産業となり、蠶業界の金庫となる一大發見なりと信じ、並に氷室蠶種貯藏所の狀態を述べて識士の資材たらしめやうと思ふ、希は試して以て斯業の福利を增大せしめられたい。

養蠶年中行事

愛媛縣立農學校教諭　池田榮太郎
馬場由

八月（立秋）

除暦七月の節即ち舊盆である、戸々門外に燈火を焚きて先祖の靈を迎ぶ、佛前には盆棚を布ひて瓜・牛・馬を造り香を焼き花を捧げて經を誦して靈を祀る、之れ孝道の終りか。

杏葉を採ぶ雲は晴れて、夕暮れの風涼しく風鈴に音信れて、湯上りの気も爽かで二つ三つ暗み縫ふ螢光は宛ら立秋の來るを報ずるが如くである。

秋蠶飼育室

蠶室の外圍に陽氣を避くる目除けを設くるのを可とする。但氣温低き又は雨後除温のときは目除を除の裝置をなし、室内の天井或は棚間戸障子等は蠶兒の成長するに從ひ漸次開放して專ら空氣の新陳代謝を圖り得る樣に構造せねばならぬ。

秋蠶の摘桑及貯桑

秋蠶に與ふる桑葉は摘桑器又は摺瓜にて桑葉の莖及葉の幾分を殘して摘み取れば芽稍を損傷することなく、一節中は新稍の尖端附葉二枚目三枚目の、軟なる桑を摘み二節三節と順次下向の硬葉に及ぼして摘葉する、當時は春蠶期に於ける桑葉に比し蒸發劇しきものであるから之れを避くるの手段として早期又は夕刻露ある桑を摘み取りて穴倉若くは土藏等に貯桑するを可とする、然れど夕刻以後に於て桑葉多量を要する樣になつては日中及大風の日でも摘葉せなければならぬ如斯日に摘葉した者は概して水分缺乏の爲枯損するの憂があるものである、貯桑に先ち噴霧器で適度に撒水して能く攪拌して貯桑する、此水を撒ぐには稀なる桑葉を能く攪拌して熱氣のない後にする、然うでないと忽ち蒸熱を發して之れを蠶兒が食するときは疾病の誘因となる、但雨後一二日間は水を撒布するの要はない、又濡桑は蠶兒に過度の水分を與ふるものであるから健康を害するものであるで與へない方が可い、然し連日過続である場合は此の限りでない、又濡桑を乾かすには必らず火力を用ひてはならぬ。

秋蠶中高温多濕の取扱

養蠶家の郷決とする所は蠶兒に其者の性質を知り、又之が好忌する所を察し、蠶兒の心を以て己の心とし、其性に戻らざる樣注意するといふことである、然らば秋蠶飼育に適當な温

温度は何度であるか大概温度八十度濕度八十五度とする、若し高温度八十五度を超へる時は空氣稀薄で桑葉枯損して疾病を起し殊に蠶兒の發育の遲速に影響なかなるが爲蠶兒の生理上に宜しくない、一般秋蠶期は多温であるから若し取扱不注意であつたならば高温の爲蠶室に蒸熱を發し最も危險である、又低温七十五度より下降するとは所謂逆温と稱して蠶兒の發育を妨げ健康を害するものであるが是等の不注意なる取扱をなすとらは、温度の地方が其悲が少いけれども寒地では其悲が大きい、暖國地方では温度の變化が蠶兒に影響し其悲がある、例へば前日蒸熱九十度以上なるも冷風十度にも下降することがある、如斯氣温暴下するときは火力を用ひ、補温する必要は十度以下若しくは六或は降雨の爲に七十度以下に降する場合は一時間三度を超へさるを標準とする、又高低の差は十五度を超へないが可い。

秋蠶夜間の注意

秋蠶の失敗は多くは夜間にある、何故なれば夜と雖も蒸熱蒸に劣らないに係らず飼育者は疲勞の極早く戸障子を密閉し、室内空氣の變動に留意を怠りて給桑除沙を忘りて就床するからで、爲に稚蠶期は晝間と同じく間接に空氣を通じ、四隅以後は温度の高低によつて外戸を開放して空氣の新陳代謝を計る、其程度は八十度以上にありては午前二時頃迄戸障子を開放し二時後は冷温の恐があるから障子を閉づる、若蒸熱の憂あるときは目的温度に達するまで開放し七十度になつたならば更に外戸を閉ぢ、其後尚再び蒸熱の發するや否やを注意することが最も肝要である、曇りたる夜は温度が高くなくても常に蒸熱の氣味あるものであるから厚く注意を要する、但し寒國地方は前述の如く往々夜間氣温低下する場合が多いから却て補温に務めねばならぬ。

奥州陳の所有講業蠶園の氏田昌吉せる愛蠶兒の生理上に関して説明されたる會場へ山口縣小田郡

秋蠶上族

既に述べたる如く秋蠶期は殘暑甚だしく温度常に九十度前後なるにより蒸熱を釀すことが屢々である、如斯時に於て未だ食欲を絶たないものを族中に入れゝば呼吸困難の爲に蠶病を生ずるのみならず蠶兒皮膚の各部から排泄物を分秘して糞尿等を悉く漏出するから非常に疲勞して族中に斃死し又老熟は徒らに絲を吐出するばかりでなく熱力衰へ良繭を結ばない、故に若きに失せず老きに過ないよう嫌注意せねばならぬ、上族後高温の爲蒸熱を發することがあれば始終空氣の交換に勉め決して停滯せしめては

ならぬ、若しこれを忘るときは以上の損害を受くるのみならず死籠を生じ殊に繭の光澤が解舒を害し、大に繭の品位を損ずるのであるから、故に上蔟室は春蠶と異り成るべく低温ならしむるの注意を要する。

製種家と育蠶家の心得

近時秋蠶業の盛に成るに從い製種家は粗惡雑駁或は異名同種の蠶種を製造して未熟の育蠶家を迷はすの憂なしとせぬ之れが爲め育蠶者は殖品種の撰擇に苦しむのは一般の情況である、故に此弊を避けんには育蠶家共同して蠶種を購入するに如くはなく、其方法は一町村或は一郡の需用者より老練家を人撰して製造地に出張せしめ飼育中の狀況を仔細に視察し、上蔟に及んで豫め其製種の日を算定し一時歸郷の上組合若くは團體員に其狀況を報道し而して需要の數量を定め乃ち勝入の申込みを爲さねばならぬ、亦育蠶家の義務として飼育中の天候より蠶兒發育の模様、繭の石數繭質の品位及び蟻量一反に對する上、中、下、同功繭等の歩合より繭販賣價格或は病蠶の種類等に至る迄の狀況を良否に拘らず詳細迅速に製種家に報道し、製種家の參考と爲さしむる、然るときは製種家は需要地方の報知を得て或は喜び或は憂ひ、喜ぶものは明年の計畫に獨で考慮を廻らし、憂ふる者は其不作の原因何れにありや考究して以て改良の資料と爲すのである、是れ則ち改良の一策であつて本邦蠶種撰擇上の一助たること疑ない、春夏蠶種購入の際も亦之に從ふが良い。

風穴秋蠶種製造

風穴秋蠶の豐凶が蠶種の健否に大関せらるゝことは昔く世人の唱導する所である故に蠶種の改良は目下の急務である、彼の製種家が販賣の見込なき即ち注文なき蠶種を製造し、發生に先だち發学販賣を試むるが如きは蠶卵生理上に障害を蒙ることが少くない、されば此際風穴を矯正せざれば止まぬ、要するに製種家は前述の採種法に從い飼育容易なる且つ本邦生絲改良上に適合せる蠶種を注文に應じて撰び、該種の始めは二化性第一化と二化性と即ち夏蠶の殺と春蠶の掛合せより製造し來つたけれども近年人爲的智慮に刑し現今の如く一年一回即ち一化性となしたるものであるから、益々性極めて强壮で繭質も亦善良であるが故、年々飼育者を增加するに至つた、秋蠶の盛な地方は春蠶期に於けると異なることなく盛況を呈してをる。

國風圖詠

八月白露時、萬物靡衣色、郷氣南々過、機織已成剛、此時穀宜納、冬來好營生、肥室掃蠶具、薄蔟及時整、後生隙一識、久性無乃無、蠶試習蠶情、子、端即家自暗。

絲況

横濱市場

▲七月中の生絲市場　久しく不振であつた横濱市場も歐洲向の註文があつたので幾分好氣配を呈して五日頃より信州上一番格八百七十圓と五圓高の相場を顯はしたが其後の海外註文が捗々しくないので、歐米向商館とも當月目の取引きに止め更に新規の商談を運ばぬから、市場は稍氣鋭き成行を呈した十一日頃より新絲の出廻り漸次增加し、米國向は依然不振であつたが、歐洲向の手合があつたり十四日には折返絲の初手合があつたりなどして賣行再度良好となり市場は大に賑ふた。乍併各館へ爲に相場は好賣行きの反對に安く、上一番八百六十圓に氣鋭く、折返絲は一頭馬八百四十圓と始りて四十五圓と小縛りを示したに過ぎない、斯して十八九日頃に至りては入荷の增加に制せられ、賣人は五圓乃至十圓と安にても賣應じやうといふ態度に出てたので商談は意外に圓滑に運ばれたが、價格は又々下りて上一八百五十圓となり座繰及折返絲は初商物より約十圓方の低落を告げ二十四五日頃より月末に至りては歐米向の商談概して不活潑となり捗々しき手合なく上一遂に八百三十圓となり、最と心細さ感を以て越月をしたのである。

▲價格の差　昨年七月中に於ける最高値は甲州甲南産及廣盛社細の千〇四十圓で最低値は岩代共同二馬折返の八百四十二圓五十錢であつたが、本年の同月に於ける最高値は三河東信産細の九百五十圓で最低値が岩代共同二馬折返の八百二十五圓である、左れば高直に於て十七圓五十錢方本年の方が安い、エタズトラ以上の生絲を製する製絲家の苦痛想像の外である。

▲生絲の集散　七月中に於ける生絲は如何に集散したかは左表に依て之を知ることが出來る。

明治四十三年七月自至三十一日生絲集散表

器械	持越	入荷	賣了	地方積送	繰越
座繰	六、八八三	二、六一九	一八、〇八二	七六四	一四、二二七
折返し繰	一三六	一、六八二	七五八	一、〇六〇	
繰	四	九六八	五七九	三九三	二〇
合計	七、〇四四	二、八四三	一九、四一九	七六七	一五、七〇〇

備考

一、爽中早位置は九賀日を增す

二、持越とは翌月より水月に持越したるものにして本月一日の調査繰越とは本月分より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、前月分の繰越と其數一致せざるは歐中のものありしに依る

四、賣了中米國に輸出せるものは六千六百發歐洲に輸出せるものは三千三十

明治四十三年七月自至三十一日生絲集散日別表

器械 座繰○ 折返繰△ 合計×

月日	入荷手合	賣了	引渡	輸出	地方積送	國名	社名	種類	最高價	最低價	摘要
一日	九五一	二六四	五九七	六三	四〇	信濃	林牧	山製			歐米とも概して不活潑となり捗々しき手合なく上一遂に八百三十圓となり、最と心細さ感を以て越月をしたのである。
二日	六三三	三五〇	四四七	六一	一〇五	信濃	入田	田製	八六五	八五五	前報員繰日曜日
三日											
四日	一、六一八	四六一	五二四		四〇	信濃	信日	哭製	九六〇	九六〇	米國には逐に捗々しき商談せざりしが欧洲向は幾分好氣配を呈して五日頃より信州上一番格八百七十圓と五圓高の相場を顯はしたが其後の海外註文が捗々しくないので、歐米向商館とも當月目の取引きに止め更に新規の商談を運ばぬから、市場は稍氣鋭き成行を呈した十一日頃より新絲の出廻り漸次增加し、米國向は依然不振であつたが、歐洲向の手合があつたり十四日には折返絲の初手合があつたりなどして賣行再度良好となり市場は大に賑ふた。乍併各館へ爲に相場は好賣行きの反對に安く、上一番八百六十圓に氣鋭く、折返絲は一頭馬八百四十圓と始りて四十五圓と小縛りを示したに過ぎない、斯して十八九日頃に至りては入荷の增加に制せられ、賣人は五圓乃至十圓と安にても賣應じやうといふ態度に出てたので商談は意外に圓滑に運ばれたが、價格は又々下りて上一八百五十圓となり座繰及折返繰は初商物より約十圓方の低落を告げ二十四五日
五日	六五九	一八九	八〇五	一〇〇	三河	信濃	下諏訪	藤製	九三五	九三五	米國には逐に捗々しき商談せざりしが欧洲向は幾分好氣配を呈して五日頃より信州上一番格八百七十圓と五圓高の相場を顯はしたが其後の海外註文が捗々しくないので、歐米向商館とも當月目の取引きに止め更に新規の商談を運ばぬから、市場は稍氣鋭き成行を呈した十一日頃より新絲の出廻り漸次增加し、米國向は依然不振であつたが、歐洲向の手合があつたり十四日には折返絲の初手合があつたりなどして賣行再度良好となり市場は大に賑ふた。乍併各館へ爲に相場は好賣行きの反對に安く、上一番八百六十圓に氣鋭く、折返絲は一頭馬八百四十圓と始りて四十五圓と小縛りを示したに過ぎない、斯して十八九日頃に至りては入荷の增加に制せられ、賣人は五圓乃至十圓と安にても賣應じやうといふ態度に出てたので商談は意外に圓滑に運ばれたが、價格は又々下りて上一八百五十圓となり座繰及折返繰は初商物より約十圓方の低落を告げ二十四五日
六日	一、〇〇八	六七七	五七一	二七	四二	信濃	久保田	藤製	八五五	八五五	前報員繰日曜日
七日	六七〇	九一	五二八	九	三五	信濃	武藏	藤製	九六〇	九六〇	米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりしが欧洲向は入荷不足にて賣付なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
八日	八〇三	四七	五二八	二七	四二	信濃	信州	藤製	八七〇	八六〇	相場は少しく安く賣人海の爲手合ありたるのみなりし
九日	一、二五三	四四七	六七九	二七	二八	信濃	諏訪	藤製	九三〇	九六〇	細く捗々しからざるも成行なりし
十日											
十一日	一、七一〇	二四三	四二一	二八		信濃	東日	哭製	九二五	九六五	米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十二日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十三日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十四日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十五日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十六日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十七日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十八日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
十九日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十一日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十二日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十三日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十四日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十五日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十六日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十七日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十八日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
二十九日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
三十日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし
三十一日											米國向は輕い商談ながら相場は保合なりしが欧洲向は品により四五圓高に出來なりし

| | | |

問　答

▲白絲　嘱ル商内容にて極めて沈靜を欠けたり
七里絲（絲綿甲）四六二〇瓩中　蓋瓶絲（嘱甲）四七五—四六五瓩（唐記絲　蓋甲）四一〇瓩二五瓩（綿甲）四六二〇瓩、機械七里絲（山及埼甲）五七五瓩七里絲（改良埼）五一〇瓩（同新式絲　蓋　蓋機甲）五六〇瓩、蓋機甲五六〇瓩、同（黄綿甲）六六〇瓩

▲黄絲　汚場　汚場方面の需要頗りなるため市場大ひに活氣付き十瓩方出張せり
汚場絲（エス、ナー、エス、シー甲）四六〇—四四〇瓩、同（シー、シー甲）四六〇瓩
同（シー、エッチ甲）四二〇—四四〇瓩、同（エフ、ケイ甲）四二〇—四一〇
▲山東絲　前張より十瓩方出進のためレイ、ケー絲四七五瓩、チャープ四二五瓩を出せり
▲四川絲　クーポー三四七瓩二分の一若くは三五〇瓩を出せり
▲柞蠶絲　長柞物三三五瓩位なるが今週蒸汽器械物二百瓩出せり組織に向け輸出
徳印及黄色交叉四〇〇瓩、二二雷紫紫印三九五瓩、一二雷黄印紫及黄瓦印三九〇
黄白絲七海出高

（九月一日より七月二十九日）

	本年度	前年同期
倫敦	三七二梱	四九七梱
伊太利、西西	八六二	一、五一七
英國	五八九	六三七
孟買ボンベイ	一〇六	二九三
香港　其他	九七一	二、一八七
合計	二、九九七	五、二二七

風宿の中黄絲は六二八梱にして白絲二一六九梱なり
此外蒸汽器械絲の輸出高を見るに如左

	本年度	前年同期
欧洲	二、三三四梱	一、七九八梱
米國	二七二	一七八
	（六月一日より七月二十九日）	

御注本日迄の船積及び取引決定分と在荷数に左の如し

	黄絲	白絲	柞蠶絲
欧洲在向分	二、〇〇〇梱	三、三〇〇梱	……
米國在向分	……	……	……
上海在荷高	一〇〇	一、〇〇〇	二、五〇〇

注意　白絲欧洲行の分は一梱八〇キャラッチ、（一キャラッチ約貳百六十目）にして黄絲何れも貳百目（緯の製品横濱市場通二河合商店調査覚）

沖縄縣の蠶業に就き質問

三重縣選出衆議院議員　荒木正一

答

沖縄縣蠶業発達の程度

（一）沖縄縣蠶業発達の程度
（二）試験は蠶業試験場習所の所在地
（三）沖縄縣内七大分区に於て蠶業試験場習所の所在地
（四）沖縄縣内の人情風俗等詳記せる雑誌等あれば発行所並に雑誌名承りたし

答

學士　芳賀權四郎

一、沖縄縣蠶業発達の程度は左表に依り知ると得べし

年	生絲製造額	蚕種製造額
明治三十七年	一〇七	五七
同　三十八年	一七七	五九
同　三十九年	一三一	六四
同　四十年	一一九	六六
同　四十一年	一八二	一〇〇

蠶種は寒ち他縣より之を買め蠶業製造者無く又生絲は自家用の爲に製造せらるものみにて之を發賣とする生絲製造者無し

二、沖縄縣は七大八郡月の部著別分除くの外年中蠶見の掃育に適し冬季の候と雖も掃育し得べし

三、蠶業に關する試驗場傳習所等は公立官立共に無し
四、沖縄縣の人情風俗等記載せる書籍は極めて稀なるが如しと雖ども琉球清史南島沿革史論等の間接せば其の略知ることを得べし　白石　神田氏　神保町京出版にあり

法律上再交尾の件に就き質問

兵庫縣正員　高雄喜代藏

蠶種製造者に於て登録に際し雌雄の均衡を欠し雌雄の著しく多き場合或は製糸経済の圓滑を図らん爲め、當初に於て雄雌を選分なしたるものを以て、當に雌雄の割合に於て雌雄を選分なしたるものを以て、製種するときに雌雄の割合より此種類が多い有は法律上再交尾なきや。

答

法學士　阪本家則

刻に規定なく或又なし法律に依り制限する程の弊害はない。

製絲を目的とする生産組合に就て質問

山形縣選出衆議院議員　三浦作太郎

一、製絲を目的とする生産組合を設くる以上は必ず製組合を兼ねられて賣捌上に於ける效果に鳴んどなきか如く考へるいが何ぞしよう
二、単に製絲のみを目的とするときは其出繭種類の前後に關し組織を来すの恐れなきや
三、製絲を目的とする生産組合にありては創業當時臨定資本を多く出て資産家よりは可来多く
加入口數を少くして其分担を採る方然るに一からずや
四、製絲を目的とする組合の事業中貯蔵方法に最も重きを置くを要するが如したらずんこの製糸機の前後及火災等のある場合にありて組合員の粗紙を免れざるか如く考へらる如何

陸中國西鄙郡立四郡岩井女子職業學校蠶病傳習所の光景

答

農學士　有働良夫

一、製絲を目的とする生産組合とは養蠶業たる組合員の生産に蠶を組合に集め、之より製絲する組合のことであらう而して其製絲は如何に區分せらるるか、或は組合員か自家に引取りて家用の機物に供するか
（甲）組合員か養蠶業兼業者にして、自己の機織原料に供するか、
（乙）生絲の儲販賣するか、の二途の外はない而して（乙）の場合に於ては
（イ）組合員各自に販賣するか
（ロ）組合に於て共同して販賣するか
の二方法なければならぬ
今前記の場合及方法に付考ふに
（甲）及（乙）の（イ）の場合に単純なる生産組合にて経営せらるるへく、生産費節減の利得があるけれども（甲）の適用せらるへき實際の場合は甚た稀てあらう、
（乙）の（イ）に付ては P—セ販賣するものならば各自に販賣するは利益てある、賣捌者の地方の實況を詳にせんけれども、製絲は之を販賣し、向くな主とする地方たるへしと思はる、来て然らは各自に販賣するよりも（乙）の（ロ）の共同して販賣する方法を採るか得策と考ふ、各自販賣より共同販賣の方利益なる所以に付ては數多の實例もあり實に明瞭にして、故に詳細に答辯する必要はかなろう
只上の如く共同して販賣せんとする以上は単に申合せにて販賣するより法律上明確なる形を備ふるを可とするあら販賣組合を兼営するか来る。
尤も組合員の蠶繭より製糸しなる販賣するだけのことなれば、生産、販賣組合か兼營せずとも、単に販賣組合にて出来ることがあろう、（組合員の生産したる

物に加工して之を販賣することゝなる法文な發刷すべし）

二、絲繭、品質等の檢査な一定の準帳に隨ひ十分に行ひ一方組合員に共同利益な惑しめんとするは到底給給な來すことなからん、單なる生産組合にて其無帳販賣組合にても檢査のことは大に慎重にせねばならぬ。

三、資産業より多くの日數な引受けて貰ふことは嬉しいが、組合員の第出繭の數量に應じ、日數な負擔せしむる（例へば一石位出す者は出貰一日にて可なりである二石位出すものには二日と必ず負擔すべし、其以上の日數な負擔する位隨意とする云ふ如く）な普通の方法とする。

四、貯繭方法に就て重きな置くと云ふは當然ある其の他にも大切なることがある、但し貯繭に就ては蔵置なるな要する、故に嚴重なる設備及給な要するは勿論である。

附記、買繭者の悲な明かにする為なるべく組合員の産出する産繭より製絲、之に販賣する為に組合な設りんとするの意向のやうである、果して然らば其所謂産繭の確水社、甘樂社、下仁田社の如き長野蚕各地に於ける製絲販賣組合等な解消し、遂に共同販路な實行せられんこと是望むのである。

風穴と冷蔵箱との利害得失其他に就き質問

愛媛縣　遠藤常貞

答　佐々木　市太郎

（一）冷蔵箱は自分の住居する家屋内に設くるのなれば、蚕種の貯蔵出箱等取扱ひに便利である、然し乍ら之れな外蚕に使用する目的に利用するならば、夏秋蚕種は冷蔵箱に貯蔵するに比べ冰冷な要して、経済上不得策である。

（二）風穴は冷蔵箱に比べ風穴に貯蔵所等に貯蔵するが最も宜しい、但し何れも貯蔵中温度三十度に下り四十度に上らぬものが最も宜しい。

（三）蚕種が虫病で死亡するか、貯蔵前又は貯蔵中の温度が比較的高かったか、或いまた其然温度中に置き夫れから貯蔵したかなどである但しこれは秋蚕種に使用したのである。

（四）蚕種（黴種）の無害な保存方法は、蚕種の貯蔵出箱等取扱ひに使用するのが最も安全であります。

（五）蚕種（黴種）の利害得失な如何なる風因でありますか。

答

（一）冷蔵箱は自分の住居する家屋内に設くるのなれば、蚕種の貯蔵出箱等取扱ひに便利である、然し乍ら之れな外蚕に使用する目的に利用するならば、夏秋蚕種は冷蔵箱に貯蔵するに比べ冰冷な要して、経済上不得策である。

（二）風穴は冷蔵箱に比べ風穴に貯蔵所等に貯蔵するが最も宜しい、但し何れも貯蔵中温度三十度に下り四十度に上らぬものが最も宜しい。

（三）蚕種が虫病で死亡するか、貯蔵前又は貯蔵中の温度が比較的高かったか、或いまた其然温度中に置き夫れから貯蔵したかなどである但しこれは秋蚕種に使用したのである。

（四）蚕種（黴種）の無害な保存方法は、蚕種の貯蔵出箱等取扱ひに使用するのが最も安全であります。

（五）蚕種（黴種）の利害得失な如何なる風因でありますか。

會務錄事

●支會設置及支會職員の囑託

佐賀縣には從來地方蚕員部な設ふ本會々務な處理し來れるが蚕員の數相に增加し會務繁忙なるな以て今回佐賀地方蚕員部な廢して佐賀支會な設置し本會々頭の指揮に依り組織發下とする同支會長な左の通囑託おりせられたり。

佐賀支會長　西村陸奥夫

本會山形支會幹事長及本支會職員中異動ありたるに付各其支會長の推薦に依り幹事長は總裁殿下とし委員部長は本會々頭より夫々左の通囑託せられたり。

山形支會幹事長　総裁殿下

理事支會委員部長　河西太彌

高野定義　阿蘇　十時三吉郎　上益城　古城彌三郎　玉名　中西重義　鹿本　宮安治　菊地

佐藤貞之助　八代　坂本　到　葦北　黒江宮次郎　球磨　河嶋弘　天草　田中

致知

同會職員　西村雅之助

●特別會員の推擧

左記は本會會員に貢獻ありたる勉勞顯著なるの廉を以て總裁殿下の御聞に達し本會々頭より勲同會員に推擧せられたり。

三重縣蚕業會員　宮崎高一

富山縣同　荒井馬次

●奬勵委員の囑託

本會本來の目的及事業の遂行を期せんがため支會規則改正と共に奬勵委員設置規程に據り今回神奈川縣下に於ける同委員な左の通本會々頭より囑託せられたり

神奈川縣町、村奬勵委員

鎌倉郡　淵谷　川口勇次郎

茅ヶ崎郡　中和田　特田初次郎　三橋金太郎　戸塚　渡邊

中郡　伊勢原　野口華治　北條　小坂　小泉榛兵衛

愛甲郡　愛川　田島忠二　萩野　小林　外　樹澤　柏木德太郎　稲田　關山五郎右衛門　高峯　鹿嶋八十八　厚木　渡邊定太郎

鎌倉郡　吉野　大澤民　内藤　山口芳太郎　太井　梶野冥市郎　中野　大藤

董　小淵　鈴木其太郎　川尻　八十千代光　島屋　小林寡一郎　日運　小野

信谷　橋澤駿兒　三陸　高城治寛　名倉　和智知二

橋樹郡　旭　金指八郎右衛門　稲田　關山五郎右衛門　五島新太郎　向在　杉

田宗伯　大桐　福橋仁助　御幸　原　渡邊

都筑郡　田奈　井上忠太郎　中里　村田原之丞　新治　石井三五郎

中川　桑原良叔

●本會職員の出張

青地主事に去れ七月廿日奬勵委員設置の笠長野縣へ出張同月三十一日歸京八月五日

新潟支會總會終に品評會賞授與式に臨席の爲め出張

加藤技師には七月二十四日奬勵委員設置の爲埼玉縣へ出張八月二日歸京

重宗技師には七月二十五日宮城支會高等蚕業講習會講師として設に奬勵委員設置の爲同縣へ出張

蠶桑雜觀

令旨

本日茲ニ京都蠶業講習所卒業證書授與ノ式典ヲ擧クルニ當リ一言以テ諸子ニ告ク惟フニ蠶絲ハ本邦輸出品中ノ首腦トシテ推奬セラルト雖モ尚之カ改善發達ヲ要スルコト尠カラス當講習所夙ニ育英ノ局ニ衝リ年々幾多ノ卒業生ヲ出シテ斯業ニ貢獻又貞愛ノ深ク欣ノ所ナリ冀クハ現狀ニ安ムセス益力ヲ人材ノ養成ニ致シ卒業生諸子亦能ク本所教養ノ趣旨ヲ體シテ勵精其業ニ從ヒ指導啓發ノ任ヲ盡サ

蠶桑雜觀

▲京都蠶業講習所卒業證書授與式　七月廿二日京都蠶業講習所に於て第十回卒業式（男生）講習第一期本科（女生）講習生及第十一期講科講習生卒業證書授與式を擧行せられたり、其次第左の如し。

當日午前十時六分代理講所員桑原修長、大藤京都府知事、北條縣知事の來賓及職員一同着席、石渡所長より本科（男生）講習生十五名本科（女生）講習生十八名、講科講習生四十五名に卒業證書を、清瀬留學生本科修業者三名に修業證書を授與し、次で優等卒業生本科男生三名本科女生二名講習生二名に賞品を授け、爾て所長の式辞、伏見宮殿下令旨、農商務大臣告辞、來賓生徒代表高田酒也告辞を朗讀し式終て右令旨及告辞並卒業生の氏名左の如し。

ムコトヲ望ム

明治四十三年七月二十二日 大日本蠶絲會總裁大勳位功二級 貞愛親王

告辭

蠶絲ハ我邦輸出品中ノ巨擘ニシテ輸出年額一億三千萬圓ノ多キニ達シ輸出總額ノ三割餘ヲ占ムルノ盛況ニ在リ殖業ノ盛衰ハ實ニ國家ノ消長ニ關スル大ナリト謂フヘシ是ヲ以テ內閣蠶ノ改善ヲ偉ル外貿易ノ發展ヲ期シ特ニ其ノ技術ノ刷新ニ熱誠ヲ傾ケ多年ノ研究ヲ積ミ遂ニ外貿易

▲評議　生糸は現在の相場極めて低落せる際なれば此品に対して先づ百貫位のものと認められる最も数量多くして一定のものから極へ得ば高に賣却し得べき見込みの廚にて一升四十五銭のものならん

▲**肩廚整理法教師の講習**　長野縣にては蠶糞整理法技師養成の必要を認め、九月中旬より向六六十日間の講習会を開き廚整理に関する學理及實習を授くる由、希望者資格は滿十八年以上の女子にて高等小學校以同等以上の學力を有し、蚕種製糸に經驗あるものなるべしといふ、而して志願者は八月二十五日限り志願書に履歴書を添へ、所轄町役場郡市役所を經て同縣知事に出願すべしとのことなり

▲**群馬縣に於ける各種大會**　今秋開催の群馬縣主催一府十四郡聯合共進及び少數會合のもの等有力視する由にて大會として出席果ジ人員の決定し居る主なるものの左の如しとのこと

開會日日	會名	出席樂定員
九月十八日	聯合府縣新聞記者大會	一五〇
同　二十日	教育品評會開會式	三〇〇
同　廿二日	群馬縣産業組合總會	四、六〇〇
同　廿三日	聯合府縣醫師會	五〇〇
同　廿四日	大日本私立衛生會	八七〇
同　廿五日	農會役員大會	六〇〇
同　廿六日	産業組合役員大會	一、〇〇〇
同　廿七日	蚕業講習會長會議	一、五〇〇
同　卅　日	度量衡大會	四〇〇
十月一日二日	佛教大會	一、〇〇〇
同　六日七日	特許大會	三〇〇
同　八九十日	聯合府縣教育大會	四〇〇
同　九日十日	聯合府縣醫師大會	二〇〇
同十一日十二日	聯合府縣神職大會	四〇五
同十四日	大日本蠶絲會臨時總會	一〇〇〇
同　十五日	武道大會	七、五〇〇

繭種	最細	最太	平均	最大	最小	平均
同上業	三六、二	七	都	小	二九五	伸度

繭種	最大	最小	平均
又青	三〇二	二七二	九三三
一粒繭	三〇二	二〇七	五〇〇
同	四三五	二三九	八〇
小石丸	五四〇	二七〇	四〇〇
一粒繭	三〇〇	二九二	三〇
同	四二五	二七七	〇
同		二三二	一

繭種	最大	最小	平均
同	三〇二	二七二	九三三
同	三〇〇	二〇七	五〇〇
同	三〇〇	二五六	八〇
同	三〇〇	二九二	四〇〇
同	三〇〇	二七七	三〇
同	四二五	二三二	一

▲**臺灣産生絲の檢査成績**　彌北廳下に於ける本年春期蠶の生絲々糸演生絲檢査所に送り特別檢査を經たる成績は左の如くなりと云ふ。

▲肉眼檢査　材料薄少にして給ん之評点を下し難しと雖も変ずるに色澤可ならず且總の成績不一定にして承解所解かならず

▲品位檢査　繊度五日間節節に四日後分は十日分採りて平均せるもの

繭種	最細	最太	平均	最大	最小	平均
同上業	三六、二	七	都	小	二九五	伸度

繭種	最大	最小	平均
又青	三〇二	二七二	九三三
一粒繭	三〇二	二〇七	五〇〇
同	四三五	二三九	八〇
小石丸	五四〇	二七〇	四〇〇
一粒繭	三〇〇	二九二	三〇
同	四二五	二七七	〇
同		二三二	一

	絲量	繊度	切斷	伸度
	一、九二	三〇〇	三	五三
	一〇七	二〇〇	一	〇
	一三九	二五六	一	一四
	一七〇	二九二	三	三〇
	〇八二	二七七	〇	〇
	一二三	二三二	一	八

▲繭　生糸　蛾　力　九六

▲色澤　上業法及び殺蛹　乾燥等の關係にや著しく損傷せられ居たり

▲形狀　稍々一定せりしと雖も蚕種の品種にあらずして小に失するの嫌あるべし

▲鑒　宜しき方にあらず

▲解舒　稍不良なり

	絲量	繊度	切斷	伸度
	一、九二	三〇〇	三	五三
	一〇七	二〇〇	一	〇
	一三九	二五六	一	一四
	一七〇	二九二	三	三〇
	〇八二	二七七	〇	〇
	一二三	二三二	一	八

同　十七十八日　聯合府縣農工銀行大會
同　十九廿日　産業組合聯合大會
同　廿一日　林大會
同　廿六廿七日　關東蚕糸業大會
同　廿八日　關東蚕糸業大會
同　廿九日　（公用）聯合大會
十一月三四五日　關東商業會議所大會
同　六、七日　聯合府縣商業會議所大會一〇七

▲**蠶絲業法の制定**　農商務當局は愈々來年度に於て國立蠶糸試驗所の創設及び蠶絲局の新設を計畫し漸次業の改良發達を図り同時に之に伴ふ取締法制定の内議あり目下種々調査中なりとのことなるが同法案は蠶絲業法と稱して官營蠶業に關する法規蠶絲業關係同業組合に關する監督奨勵規定及び現行蠶病漸防法等を一括したる特別法なりといふ。

▲**世界の寵況**　德國里昂生絲商組合より七月二十一日本省に報告したる世界の蠶況は左の如し。

佛　蘭　西

「ヴォークリューズ」「アヴォニョン」（六月二十一日發）市場に現はれたる上物數箱三法にて立合り「ガレース」（六月二十二日發）初繭現はる、繭質思はしからず蛾蛹春靜し此の動物に付ては相場未だ立たず。

「ヨロー」（六月二十一日）相場は三法に始りし所昨日三法三〇「ランナーム」にて一千基の買約なりしたる爲め取引盛潮たるも地の買手は三法以上の買進みなる筈なり。

「センガール、シー、ピュトノー」（六月二十三日）相場は三法に確定す

「ガンヨル」（六月二十五日）初繭現は代相場は三法なり、又仲買の手を經て所有者より直接工場渡の分の十「ランナーム」に始り繭質は普通なり、買手は高價を唱へ買手は之に應ずるれば取引盛なり。

山形縣付山蚕糸專門講習所

同　四〇
同　一、〇〇〇
同　八〇〇
同　一、〇〇〇

「ガーリ」（六月二十一日）本日の市場は少しく活氣を帶びたるも品拂底の爲大に振はず相場は三法なり、高地に於ては三三日に上騰すべき蠶兒に歸場み來せるもの多々あり

「アレー」（六月二十二日）目下上海中天蚕絲廠る其く蠶度も非常に緩せるも初期の損害を恢復するに足らずして蠶兒に初繭期に於て国めるが爲めに繭質に甚だ不良なる如し。

「ラン」メーター（六月二十二日）高地に於ては天候佳良にして飼育狀態佳良なり來週の始に上蔟すべし。

「アンザニー」「セル、フォルチュナ」（六月二十一日發）「繭間の收穫は著しく減少せり絲量少きに拘らず買手は三法四日乃至三法六〇にて買進むとある。

「ルーゾリエール」（六月二十一日）蠶繭三法四〇乃至三法二〇〇混合三法二五乃至三法三五にて二千基手合あり

「セン、ソーゲール、ドゥモンタギュー」（六月二十日）初市に於て五百基の手合あり相場は蠶繭三法乃至三法二五混合三法乃至三法一〇より收穫は多からざるも本日市場に現はれたる繭は其質略佳良なり

「オルロヤンヌール」（六月二十日）初繭は出たれども相場は未だ立たず初蠶の蚕蛹至の收穫少減少したるも天候不良なりしとの爲め繭の收穫は著しく減少せり

「プリザア」（六月二十一日）收穫は客年に比し著しく減少せり初繭の相場未だ定まらず

「ロヨタイユーズ」（六月二十二日）飼育狀態一般に宜しからず假令今後の經過良好なりとするも其收繭高は概ね昨年三月二割方乃至二割方減少なるべし

相場は三法なる本日の手合極めて閑散なり。

「プラトル」（六月二十二日）初繭現はる昨年に比し著しく減少せり、目下の相場は三法なり。

「ドロームム」四ヲレール六月二十一日發送綿にても目下上繭なり繭買及收繭高は昨年に劣ること甚し。

「リゴロン」六月二十二日）一昨日の市場は三法を唱へ本日は上物に對し、三法二〇なり拵へり。

「ロリオール」六月二十二日）相場は若干高買に應じて三法一〇乃至三法三〇なり工場主に今の相場にては買進まず。

「ドンセール」六月二十三日）本日は三法を唱ふるも至る所品拂底なりと繭買進收繭少し。

「ニナン」六月二十三日）本日の市場甚だ不熱なり本月二十六日月曜日に至らざれば市場は實際に開かるべし。收獲は通常に減少。

「モンテリマール」六月二十二日）結蠶の着荷あり昨過物三法一五乃至三法三五「ヌキストラ」物三法三五乃至三法四〇見當。

「ビエラット」六月二十二日）相場上物三法八〇乃至三法九〇。

「ガアランス」六月二十二日）三法六〇乃至三法八五にて約三千基分買れり。

「アレー」六月二十三日）最初は三法七五乃至三法八五にて後少しく騰貴せり本日三法九〇なり繭買著進糸量少し。

「イレール」モンスタルム」六月二十三日）初繭は本月二十七、八日頃にならべし相場は未だ無風とならず、收繭量大に減ずべきと質は稍佳良の見込

東京　伊太利

「ジゾール」及「カラーグル」「ヴサラ」、サン、ザヴオンエー」六月二十日）收繭減少の路を辿る地方に於て相場上昇なり、地方に寄りては二「ール」大〇方至三「ール」三五、三「ール」五〇（一基に付、又は三「ール」五五まで上昇ふ

山形縣四郡村山郡立農蠶業講習所實驗養蚕

（二「ール」）は見積三十八錢七厘なり）

「トルカール」「ア、アルアイ」」六月二十二日）絹蠶繭の相場左の如し。

「ナンセ」　三「ール」一五

「エミエル」相場六月二十二日）ガロッテにて一等もの三、二〇乃至三、三七「ポルマ」にて六月二十三日二、八〇乃至三、〇〇

「ザエネシー」及「フリーカール」コロニア、ザエネオ」六月二十二日買了八萬基相場綿黃三、〇五乃至三、二〇黃白掛合二、九五乃至三、二〇玉至那掛合三、一五乃至三、六〇

「ロムバルザー」美濃六月二十一日）繭育は終期に近けりと雖も其結果に付確實の批評を試ること未だ難し。今日得たる調査信を綜合すれば收繭は孵化豐穣と云ふべからざるが如く昨年に比して減に少からんか相場は依然五、四〇乃至三五〇なり、美濃及附近に於ける繭の出荷は二割乃至二割五分減少せり然れとも「クーリエス」「タレマ」「ヤンター」等に於て收繭の多量なる告ぐ、三、五五乃至三、六〇にて取引あり絲量に於ては未だ正確なる試驗を爲さざるも優越の絲質あるが如し。

「ビエモンタ」六月二十三日）收獲全く終れり來週の市場は最も重要なり收繭量に於ては殆ど作伐なるべく絲量に於ては未だ正確なる評を下す得ざるも概して繰り寡好なるべきが如し、相場は綿黃繭に六月二十三日、七〇乃至三、六〇

「ボルゴ、ア、アルアイ」」六月二十二日）絹蠶の相場左の如し。

「ナンセ」

「エミエル」

「ポルマ」

「ロムバルザー」

「ビエモンタ」

「ボルゴ、ア、アルアイ」」

「ロリオール」

「ドンセール」

「ドロームム」

「ドンセール」

「ロリオール」

「ビエラット」

「ガアランス」

「アレー」

「イレール」

「ドンセール」

「ドンセール」

「ドンセ

天

初秋や故郷に向ふ人心　伊勢　紅花　冷麥や雲も行交ふ奥二階　選者　花翁

募集 狂句 〔第三十回投稿〕

金坊子選

▲秀　逸

上諏訪木鶏天狗の鼻くらべ　愛知　一宮

▲人　賞

事實らしく蠶種屋理想を廣告し　美濃　野村　天虫

逸蠶した蠶で畑の草は肥え　愛知　近藤　秋風

▲地　賞

福の神流した蠶に付いて行き　愛知　岡本　江風

▲天　賞

投書家は蠶種屋のアラで選に入り　金坊子

▲選者吟

◎血眼で風打ちとる蠶時

募集 俚謠 〔第三十回投稿〕

高橋鬼川選

▲秀　逸

主にや別れる蠶は捨てる、思やるせも夢現、　愛知　令有

逸蠶して憂う事多き日記帳　山梨　綿日

製糸の名称も先ら蠶は　羽前　松季

居候の玉動になる小枝のつや　備後　花堂

逸蠶して勝天下な事聞し　山梨　玉電

逸蠶して鋼が寶ずに　愛知　峰東

物言はぬ家に蠶の蠶の　愛知　夏子

蠶は水鉄家内ずに大風　愛知　下川

野州那須温泉にて

蠶に左右され　豊橋　蕉風

小さい蠶を　仙臺　仲二

金は蠶を　岡人

蠶の繭の　傳後　天外

蠶の繭の　岡人

蠶の繭の　傳後　天外

蠶の繭の　岡人

上族の蠶　相模　其蠶

主人の安眠蠶一同水眠し　岡人

▲人　賞

蠶食期　豊橋　長坂雅風

蠶同盟師「蠶宮殿だから桑の葉を　稱ばりなさい」蠶「でもお師さんは蠶いつ　ばいに食べると病氣になるとこぼしたから」

◎顧　馬　丹後　坪倉仙溪

蠶の作居　風の　みまつぐり　豊橋　岡人

厚い情な日毎に受けて、色蠶付いた蠶種　武蔵　雅風

田にたたび乳を　蠶を飼ふ好き　愛知　江鳥

夜蠶すまして　蠶の在所　桑園十里　羽前　桔梗

風が強い蠶の在所　桑園十里　埼玉　秋煙

乙女可愛ゆる蠶の　桑を蠶の　埼玉　赤い

蠶に上手は日本の寶　桑園上手も　由雲　山本

蠶の皮ゆも日の照る中も　桑園上手も　埼玉　一

夜蠶の皮ゆも日の照る中も　桑園上手も　甲斐　大和

夢で見あるは嬉しい育蠶に　桑の蠶に　上越　柳人

ホタル蠶の蠶に　桑の蠶に　愛知　登美子

蠶の蠶に　桑の蠶に　丹波　古城生

蠶の蠶に　桑の蠶に　京都　関天

姉に蠶の蠶に　桑の蠶に　京都　豊翠

春夏秋蠶蠶に　桑の蠶に　京都　竹江

▲五　彩

蠶は病氣　羽前　枯堂

辛苦部にや蠶は蠶れの、蠶の内度の蠶勞する　豊後　芳村

蠶の蠶の蠶に　愛知　江風

蠶の蠶の蠶に　愛知　園水

蠶の蠶の蠶に　愛知　下川

▲人　賞

蠶の切れるは蠶の蠶が下手か　愛知　星野　合有

思切れとの辻占か

▲地　賞

お顔見たいが魔が邪魔だ　愛知　高瀬　峰東

中で桑振る蚕姫姿

▲天　賞

一度切れても結ばる繭で　豊橋　長坂　蕉風

またも寄り添ふ枠の繭

▲選者吟

やつれた原因を夏蠶に着せて　鬼川

あとは涙の高島田

◎

譚か覗くと繭繰りやめて

見れば繭瓜に月の影

懸賞募集 一と口噺 〔第三十回投稿〕

▲秀　逸

京都　星立樂天

◎××

甲「君は玉蜀黍は蠶の桑だ、山梨つて繭でくたくたよ」乙「馬鹿だなア、貯蓄

蠶の蠶の蠶に　豊橋　芳村

蠶の蠶の蠶に　愛知　江風

蠶の蠶の蠶に　愛知　園水

蠶の蠶の蠶に　愛知　下川

蠶の蠶の蠶に　愛知　高瀬

蠶の蠶の蠶に　愛知　峰東

蠶の蠶の蠶に　愛知　令有

蠶の蠶の蠶に　愛知　星野

蠶の蠶の蠶に　愛知　合有

蠶の蠶の蠶に　愛知　高瀬

蠶の蠶の蠶に　愛知　峰東

文苑

懸賞募集

寫生文

高橋鬼川選

▲人賞

◎兄　京都　吉川鬼外

泣賀縣の製絲會社へ轉じた兄を訪ねた、家を潰した放蕩の兄、五年にして此會社を自由にする身と成つたが、苦勞の跡の痩せた姿、希望に燃ゆる其の眼は消えなかつたが、僕は此時此兄を苦に病んで逝かれた母を想起さむには居られなかつた。

評に曰く【兄の面影、其の無邪氣、言は短くして意は長し】

▲地賞

◎涼味　丹波　大槻古城生

夕立のせぬ間にと、急いで樵坂にさしかゝると、日盛りの蒸暑い風が、夏草の匂いを亂めて揺つて來る、僕は汗を拭き〳〵、やつとお鈴さんの家に行つた、開け放した廣い室に、いつぱいに飼はれた夏蠶は、今四齡の盛食期である、僕はこの利那一種の涼味を感じた。

評に曰く【樵坂の描出さて來て尾端の結末に巧みと云ふべし】

▲天賞

◎故郷　丹波　飯田翠村

暑中休暇で故郷へ歸りたのは丁度三年目だ。種なく無い時はく桑の實を食べに行つた桑畑は、白蝶の美しい蠶室に化し、裏の木林は二階造りの離れ座敷になつて居る、此春兄は村長に選ばれたと父は話した。

評に曰く【簡にして要を得、餘香の感、想紙上に躍る】

△寺内総監　入京以來軍政需烈日の感強を發揮し流石に稍勢はしたる京城一帶の風紀頗る良好として大に振ふと善良秩序頗目して待つ乾坤に躍の壯圖斯行の勢なり。

△英國スコット大使　スコット大使は二箇月間の休暇を利用して日本に來り、自國中於ボ此社圖の為め向の間なく奮闘して其無既に十有六年なる紀元の二千年を占もう。

△有整英の勝紅未だ衰化に拘せずして頑強に抵抗す計畫の恐戦間想像の外。

△田尻博士　其著日本の現在及將來に於て日本蠶業の勢敵は無論にあり、政治家の主論たるなれども無論大敵水産業者無しめ論と。

△木庄蠶病　傳防事業部の現裝を一定し塩玉製絲株式會社奉工女の無病を定す者は各國に此美風を及ぼして大に風紀の振興を為したり。

△日英博覽會　會に出品したる本會の富士模型實寶授賞式場に於て名勝大賞を受に並に是本邦の蠶絲が富士の天れよりも高く世界に紹介せられたりの說か。

△府下北豐島郡三河島村果樹園の本山へ三千の桂樹て大合戦為し居しりと上論自動車の発明りと云ふ者の實なれども惜しむ所は空前八州空前の大笑。

△高崎市本町の秋蠶種市場は去月中旬より開始後北海道外東京横浜方より蠶東北の蠶種仲買人込み中々月間の取引高約五十萬枚日本一の種市場。

△蠶絲局を　新設し監督蠶絲原價所の三課に分ち全國に十數ケ所の原蠶種製造所を管設すべく來年度の豫算に一百萬圓を計上せしと云ふ嬉の樓な風聞。

△日韓合併　後開座秋蠶の一法として養蠶を奨勵し之に要する機械器具等一切を貸付し及び教師の恒産を與へんとの内諾あり目下其調査中とか。

△山梨縣製　絲工場本年六月現在數百台一ケ所巻數二萬三百三百九十八餅之今新年の開目以後の數六百十一個の増加相当数現象。

△横濱二三一　の屑物商出發國海外輸出の計畫を立て買入資金の調達に奔走すと數十年來始と社絶の狀態に在りし由發商の海外輸出を見る迄に在らんか。

蠶海涓滴

第一次表彰産業組合　全　産業組合中央會協

我邦に於て産業組合法の制定せられたのは今から十年前のことである、而して斯來組合の組織せられたるもの実數五千余に達するに至るとは感らずと雖ども、組合の組織が孰れも其目的に夫々動いたならば其生産業上に於ては實に偉大であらう、故に組合の當局者は之が活動を別すると共に、遺憾なきを期すべきならんが、本年數千の組合中常に能く活動して内組合員の利厚生を図り外關係相的なるの美風を彰り殖産力の自治に貢獻することの多大なる産業組合が如何にして組織せられ如何なる法に依り活動したかは本書に依り知らるることである。既設組合の關係者は勿論将來之を為組織せんとする者の有るから、此設書の必要がある（定價六十錢発行所東京市神田區三崎町三丁目一番地大日本産業組合中央會）

養蠶法講話筆記　全　主筆　春逝

本書は山梨縣中区郡養蠶會主催の蠶業講習會に於て士屋東京蠶業講習所技師が講演せられたものを上梓したのである、麓澤中区郡長髮首に序して曰く先生篤學精行、深敬厚篤後學指導蠶業、門生四百餘人中有高部氏、柔矢叔博之知福先生之所教頗欽上諸祥篤頭門生云々以て此講習會が如何に盛大であつたか文士屋氏の講演が如何に有益であつたかといふことが想像らるると共に高部氏が本書を上梓せられた聯は理解らるることである。が百二十七頁の本書を僅かに二時で頒布されたに依ては其實質の割合に如何に廉價であるかが豊かさるる程なり（峡行所山梨縣甲府市錦町六山梨蠶友會）

寄贈書目

蠶糸業防事務統　高橋寛蔵氏
香川縣勧業七年計書　同　高等農林学校々友會
校友會々報　盛岡高等農林学校々友會
廣島縣第二十七次勧業年報　鹿島　鹿島

農山漁村經濟調査資料
第一編 第二編 第三編 第四編 第五編 第六編 第七編 第八編 第九編 第十編 第十一編 第十二編 第十三編 第十四編 第十五編 第十六編 第十七編 第十八編 第十九編 第二十編 第二十一編 第二十二編 第二十三編 第二十四編 第二十五編 第二十六編 第二十七編 第二十八編 第二十九編 第三十編 第三十一編 第三十二編 第三十三編 第三十四編 第三十五編 第三十六編 第三十七編 第三十八編 第三十九編 第四十編 第四十一編 第四十二編 第四十三編 第四十四編 第四十五編 第四十六編 第四十七編 第四十八編 第四十九編 第五十編 第五十一編 第五十二編 第五十三編 第五十四編 第五十五編 第五十六編 第五十七編 第五十八編 第五十九編 第六十編 第六十一編 第六十二編 第六十三編 第六十四編 第六十五編 第六十六編 第六十七編 第六十八編 第六十九編 第七十編 第七十一編 第七十二編 第七十三編 第七十四編 第七十五編 第七十六編 第七十七編 第七十八編 第七十九編 第八十編 第八十一編 第八十二編 第八十三編 第八十四編 第八十五編 第八十六編 第八十七編 第八十八編 第八十九編 第九十編 第九十一編 第九十二編 第九十三編 第九十四編 第九十五編 第九十六編 第九十七編 第九十八編 第九十九編 第一百編 第一百一編 第一百二編 第一百三編 第一百四編 第一百五編 第一百六編 第一百七編 第一百八編 第一百九編 第一百十編 第一百十一編 第一百十二編 第一百十三編 第一百十四編 第一百十五編 第一百十六編 第一百十七編 第一百十八編 第一百十九編 第一百二十編 第一百二十一編 第一百二十二編 第一百二十三編 第一百二十四編 第一百二十五編 第一百二十六編 第一百二十七編 第一百二十八編 第一百二十九編 第一百三十編 第一百三十一編 第一百三十二編 第一百三十三編 第一百三十四編 第一百三十五編 第一百三十六編 第一百三十七編 第一百三十八編 第一百三十九編 第一百四十編 第一百四十一編 第一百四十二編 第一百四十三編 第一百四十四編 第一百四十五編 第一百四十六編 第一百四十七編 第一百四十八編 第一百四十九編 第一百五十編 第一百五十一編 第一百五十二編 第一百五十三編 第一百五十四編 第一百五十五編 第一百五十六編 第一百五十七編 第一百五十八編 第一百五十九編 第一百六十編 第一百六十一編 第一百六十二編 第一百六十三編 第一百六十四編 第一百六十五編 第一百六十六編 第一百六十七編 第一百六十八編 第一百六十九編 第一百七十編 第一百七十一編 第一百七十二編 第一百七十三編 第一百七十四編 第一百七十五編 第一百七十六編 第一百七十七編 第一百七十八編 第一百七十九編 第一百八十編 第一百八十一編 第一百八十二編 第一百八十三編 第一百八十四編 第一百八十五編 第一百八十六編 第一百八十七編 第一百八十八編 第一百八十九編 第一百九十編 第一百九十一編 第一百九十二編 第一百九十三編 第一百九十四編 第一百九十五編 第一百九十六編 第一百九十七編 第一百九十八編 第一百九十九編 第二百編 第二百一編 第二百二編 第二百三編 第二百四編 第二百五編 第二百六編 第二百七編 第二百八編 第二百九編 第二百十編 第二百十一編 第二百十二編 第二百十三編 第二百十四編 第二百十五編 第二百十六編 第二百十七編 第二百十八編 第二百十九編 第二百二十編 第二百二十一編 第二百二十二編 第二百二十三編 第二百二十四編 第二百二十五編 第二百二十六編 第二百二十七編 第二百二十八編 第二百二十九編 第二百三十編 第二百三十一編 第二百三十二編 第二百三十三編 第二百三十四編 第二百三十五編 第二百三十六編 第二百三十七編 第二百三十八編 第二百三十九編 第二百四十編 第二百四十一編 第二百四十二編 第二百四十三編 第二百四十四編 第二百四十五編 第二百四十六編 第二百四十七編 第二百四十八編 第二百四十九編 第二百五十編 第二百五十一編 第二百五十二編 第二百五十三編 第二百五十四編 第二百五十五編 第二百五十六編 第二百五十七編 第二百五十八編 第二百五十九編 第二百六十編 第二百六十一編 第二百六十二編 第二百六十三編 第二百六十四編 第二百六十五編 第二百六十六編 第二百六十七編 第二百六十八編 第二百六十九編 第二百七十編 第二百七十一編 第二百七十二編 第二百七十三編 第二百七十四編 第二百七十五編 第二百七十六編 第二百七十七編 第二百七十八編 第二百七十九編 第二百八十編 第二百八十一編 第二百八十二編 第二百八十三編 第二百八十四編 第二百八十五編 第二百八十六編 第二百八十七編 第二百八十八編 第二百八十九編 第二百九十編 第二百九十一編 第二百九十二編 第二百九十三編 第二百九十四編 第二百九十五編 第二百九十六編 第二百九十七編 第二百九十八編 第二百九十九編 第三百編 第三百一編 第三百二編 第三百三編 第三百四編 第三百五編 第三百六編 第三百七編 第三百八編 第三百九編 第三百十編 第三百十一編 第三百十二編 第三百十三編 第三百十四編 第三百十五編 第三百十六編 第三百十七編 第三百十八編 第三百十九編 第三百二十編 第三百二十一編 第三百二十二編 第三百二十三編 第三百二十四編 第三百二十五編 第三百二十六編 第三百二十七編 第三百二十八編 第三百二十九編 第三百三十編 第三百三十一編 第三百三十二編 第三百三十三編 第三百三十四編 第三百三十五編 第三百三十六編 第三百三十七編 第三百三十八編 第三百三十九編 第三百四十編 第三百四十一編 第三百四十二編 第三百四十三編 第三百四十四編 第三百四十五編 第三百四十六編 第三百四十七編 第三百四十八編 第三百四十九編 第三百五十編 第三百五十一編 第三百五十二編 第三百五十三編 第三百五十四編 第三百五十五編 第三百五十六編 第三百五十七編 第三百五十八編 第三百五十九編 第三百六十編 第三百六十一編 第三百六十二編 第三百六十三編 第三百六十四編 第三百六十五編 第三百六十六編 第三百六十七編 第三百六十八編 第三百六十九編 第三百七十編 第三百七十一編 第三百七十二編 第三百七十三編 第三百七十四編 第三百七十五編 第三百七十六編 第三百七十七編 第三百七十八編 第三百七十九編 第三百八十編 第三百八十一編 第三百八十二編 第三百八十三編 第三百八十四編 第三百八十五編 第三百八十六編 第三百八十七編 第三百八十八編 第三百八十九編 第三百九十編 第三百九十一編 第三百九十二編 第三百九十三編 第三百九十四編 第三百九十五編 第三百九十六編 第三百九十七編 第三百九十八編 第三百九十九編 第四百編 第四百一編 第四百二編 第四百三編 第四百四編 第四百五編 第四百六編 第四百七編 第四百八編 第四百九編 第四百十編 第四百十一編 第四百十二編 第四百十三編 第四百十四編 第四百十五編 第四百十六編 第四百十七編 第四百十八編 第四百十九編 第四百二十編 第四百二十一編 第四百二十二編 第四百二十三編 第四百二十四編 第四百二十五編 第四百二十六編 第四百二十七編 第四百二十八編 第四百二十九編 第四百三十編 第四百三十一編 第四百三十二編 第四百三十三編 第四百三十四編 第四百三十五編 第四百三十六編 第四百三十七編 第四百三十八編 第四百三十九編 第四百四十編 第四百四十一編 第四百四十二編 第四百四十三編 第四百四十四編 第四百四十五編 第四百四十六編 第四百四十七編 第四百四十八編 第四百四十九編 第四百五十編 第四百五十一編 第四百五十二編 第四百五十三編 第四百五十四編 第四百五十五編 第四百五十六編 第四百五十七編 第四百五十八編 第四百五十九編 第四百六十編 第四百六十一編 第四百六十二編 第四百六十三編 第四百六十四編 第四百六十五編 第四百六十六編 第四百六十七編 第四百六十八編 第四百六十九編 第四百七十編 第四百七十一編 第四百七十二編 第四百七十三編 第四百七十四編 第四百七十五編 第四百七十六編 第四百七十七編 第四百七十八編 第四百七十九編 第四百八十編 第四百八十一編 第四百八十二編 第四百八十三編 第四百八十四編 第四百八十五編 第四百八十六編 第四百八十七編 第四百八十八編 第四百八十九編 第四百九十編 第四百九十一編 第四百九十二編 第四百九十三編 第四百九十四編 第四百九十五編 第四百九十六編 第四百九十七編 第四百九十八編 第四百九十九編 第五百編 第五百一編 第五百二編 第五百三編 第五百四編 第五百五編 第五百六編 第五百七編 第五百八編 第五百九編 第五百十編 第五百十一編 第五百十二編 第五百十三編 第五百十四編 第五百十五編 第五百十六編 第五百十七編 第五百十八編 第五百十九編 第五百二十編 第五百二十一編 第五百二十二編 第五百二十三編 第五百二十四編 第五百二十五編 第五百二十六編 第五百二十七編 第五百二十八編 第五百二十九編 第五百三十編 第五百三十一編 第五百三十二編 第五百三十三編 第五百三十四編 第五百三十五編 第五百三十六編 第五百三十七編 第五百三十八編 第五百三十九編 第五百四十編 第五百四十一編 第五百四十二編 第五百四十三編 第五百四十四編 第五百四十五編 第五百四十六編 第五百四十七編 第五百四十八編 第五百四十九編 第五百五十編 第五百五十一編 第五百五十二編 第五百五十三編 第五百五十四編 第五百五十五編 第五百五十六編 第五百五十七編 第五百五十八編 第五百五十九編 第五百六十編 第五百六十一編 第五百六十二編 第五百六十三編 第五百六十四編 第五百六十五編 第五百六十六編 第五百六十七編 第五百六十八編 第五百六十九編 第五百七十編 第五百七十一編 第五百七十二編 第五百七十三編 第五百七十四編 第五百七十五編 第五百七十六編 第五百七十七編 第五百七十八編 第五百七十九編 第五百八十編 第五百八十一編 第五百八十二編 第五百八十三編 第五百八十四編 第五百八十五編 第五百八十六編 第五百八十七編 第五百八十八編 第五百八十九編 第五百九十編 第五百九十一編 第五百九十二編 第五百九十三編 第五百九十四編 第五百九十五編 第五百九十六編 第五百九十七編 第五百九十八編 第五百九十九編 第六百編

人事彙報

鹿島學會 第一五四號 第九一一九三號 第四三一一四四〇號 第一一五三號 第一一五三號 第一一二一六號 第七七七八號 五月六月號 第一四四一四七號 第一四一八八〇號 第一三一一三四號 第一一八八〇號 第七七一〇〇號 第七七一六二號 第六一一六二號 第七一九一一三號 第七四一四四號 第九〇一九四四號 第二六一二三四號 第三三一二三五號 第一四二四一一四三二號 第五三一五四號 第二六一二四號 第一一二一二四號

農商務省農務局 第一一二一六號 第三一一一二四號 北海道農會報 北海道農會報 北海道農會報

文藝懸賞募集

俳句

九月分課題八月末日締切選案後書
金年分の課題は二百十三號に在り

▲選者　花の本花翁宗匠
▲課題　角力。月。菊。蕎麦。紅葉。
▲懸賞　天(一人)會報半ヶ年分◎地(二人)會報三ヶ月分
▲規則　句。一人に付五句つゝ。用紙郵書に限る。選定は東京新聞社高浜三秋林宗匠に一任し一切異議なし。投書は本會員に限るべし。但し地方の同志は住所氏名を明記し本會員外と雖も投書は自由なれども選に入る者は賞品を贈呈せざるべしと雖も投書せざる者は選に入るも賞品を贈呈せざるべしと雖も投書せざる者は選に入るも賞品を贈呈せざるべしと雖も投書せざる者は選に入るも

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI PAR JOURS.

DIAGRAM SHOWING DAILY MOVEMENT OF RAW SILK.

Jours. Days.	Arrivée. Arrived.	Vendue. Sold.	Renvoyée Sent back.	Exportée. Exported.	Noms des filateurs. Names of filatures.	Prix. Prices.
	Soie. Silk.				Maximum du prix. Highest prices.	
	Piculs.	*Piculs.*	*Piculs.*	*P culs.*		*Yen*
1	535	336	23	—	Makiyamaseishi	945
2	356	251	59	295	Tsunedakan	865
3	—	—	—	—	——	—
4	910	295	23	—	Tôshinyôsha	950
5	371	453	10	731	Sudôseishi	935
6	567	381	24	816	Sakuseishi	895
7	577	321	39	—	Susamotoseishi	930
8	452	297	20	—	Kogmehigumi	870
9	708	382	13	785	Nittosha	950
10	—	—	—	—	——	—
11	962	237	7	—	Ekishinsha	925
12	550	293	19	$\frac{655}{15}$	Mankiseishi	950
13	510	449	16	—	Kônansha	950
14	264	432	4	126	Rôseishi	950
15	514	378	12	—	Ooyamakan	945
16	613	303	11	$\frac{1,795}{25}$	Yokosukasha	940
17	—	—	—	—	——	—
18	1,184	389	11	—	Jônansha	940
19	557	624	10	—	Kinsuikan	900
20	474	446	6	504	Usuisha	890
21	716	421	12	497	Yazimagumi	900
22	559	878	8	—	Tôkôsha	890
23	725	315	18	693	Kyôsensha	900
24	—	—	—	619	——	—
25	1,171	577	14	420	Kinsuikan	880
26	714	356	23	—	Yamajyugumi	855
27	631	555	3	—	Tangokyôkô	875
28	605	577	15	1,062	Kônansha	930
29	746	452	16	—	Makiseishi	925
30	509	516	16	755	Kôseisha	880
31	—	—	—	—	——	—
Total	16,022	10,922	431	$9,633\frac{40}{}$	——	—

1 yen wani environ fr. 2.50. 1 Picul = 60 kilg environ.

TABLEAU DU MOUVEMENT DES SOIES RÉPARTI EN DIVERSES INDUSTRIES.

(September 1910.)

TABLE OF MOVEMENT OF SILK IN DIFFERENT INDUSTRIES.

(September 1910.)

	Report.	Brought over.	Arrivé. Arrived.	Vendu. Sold.	Exporté. Export.	Renvoyé. Sent back.	Arrepertes.	Brought forward.
		Picul.	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*	*Picul.*
Filatures. Filatures.		3'872	1,481	1,017	—	430	8,003	
Zagari. Reeel.		77	246	431	—	—	596	
Kakeche. Orikayoshi.		2	545	326	—	—	221	
Autres. Other.		12	1	—	—	2	11	
Total.		3,962	16,222	10,922	9,633 40	431	883	
1909.		6,148	15,611	9,684	4,763	617	11,541	

MARCHÉ DE YOKOHAMA.

Citons sommairement la situation de notre marché au mois de Juillet dernier.

Pendant les dix premiers jours, notre marché a présenté momentanément une vive activité alimentée par des demandes nouvelles de l'Europe, Extra No 1 ayant accusé les prix de yen 870. Mais ce n'était qu'un phénomène éphémère, les demandes de l'Europe et de l'Amérique ayant été morcelées depuis lors, notre marché a perdu un peu de vivacité. Toutefois, entrant dans la seconde dizaine, on a enregistré de nouveau beaucoup de transactions avec l'Europe, de sorte que le marché a repris une nouvelle activité. Mais toutes les maisons ayant refusé les hauts prix qui leur sont transmis, les cours ont baissé quoique les ventes eussent été tres nombreuses. Extra No 1 a reculé à yen 860. Enfin, dans la derniere dizaine, la rareté des transactions, non seulement avec l'Amérique, mais encore avec l'Europe, a provoqué un nouveau abaissement des prix, on a accusé yen 830 pour Extra No 1.

Les tableaux suivants indiquent d'ailleurs le mouvement de la soie durant la même période.

THE RAW SILK MARKET OF YOKOHAMA.

The state of the raw silk market of Yakohama during July is as follows.

At the beginning of the month the market presented some activity for a time owing to orders for Europe, and Extra No. 1 was quoted at 87⁰ yen. After that, foreign orders diminished and the market became dull, but about the middle fresh orders for Europe again enlivened the market greatly Yet the price fell lower in spite of the increaset transactions, inasmuch as all houses proceedet to dispose of their goods, and Extra No 1 fell to 860 yen. Towards the end of the month the diminution of orders for Europe as well as for America caused further depreciation in price, until Extra No. 1 fell to 830 yen.